

第70回日本体力医学会大会のご案内（第1報）

第70回日本体力医学会大会を下記の通り和歌山県和歌山市において開催致します。

全国から多くの会員のご参加を心からお待ちしております。

なお、学会の最新情報は第70回大会ホームページ（<http://wakayama-tairyoku70.com/>）をご覧ください。

記

1. 会 期：平成27年9月18日(金)，19日(土)，20日(日)
2. 会 場：和歌山県民文化会館（和歌山市小松原通り1丁目1）
ホテルアバローム紀の国（和歌山市湊通丁北2丁目1-2）
3. 大 会 長：田島 文博（和歌山県立医科大学 リハビリテーション医学講座 教授）
4. 大会事務局：文部科学省認定障害者スポーツ医科学研究拠点
和歌山県立医科大学 みらい医療推進センターげんき開発研究所内
第70回日本体力医学会大会事務局
事務局長：三井 利仁
〒640-8033 和歌山市本町2-1フォルテワジマ5階
TEL：073-488-1933 FAX：073-488-1935
E-mail：p fsm70@wakayama-med.ac.jp
運営事務局：〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5
株式会社 セレスポ事業本部 担当：小山 哲矢
TEL：03-5974-7055 FAX：03-5394-7653
E-mail：tairyoku70@cerespo.co.jp
5. 大会プログラム（予定）
 - (1) 大会長講演
 - (2) 特別講演
 - (3) 教育講演
 - (4) シンポジウム
 - (5) 国際セッション
 - (6) ワークショップ
 - (7) 一般研究発表（口頭発表・ポスター発表）
 - (8) 学会賞受賞講演
 - (9) ランチョンセミナー
 - (10) 県民・市民公開講座
 - (11) 持久走大会
 - (12) その他

注1) 一般研究発表、公募制プログラムの申し込み等については、第2報でお知らせします。

注2) 学会大会の一般研究発表への応募は学会員に限ります。共同研究者は学会員ではなくても構いません。会員および非会員の共同研究者が本大会に参加する場合は大会参加費が必要となります。

国際セッションのご案内

日本体力医学会では ECSS (European College of Sport Science, ヨーロッパスポーツ科学学会) との間で, 国際交流の促進と学会員の学術レベル向上を目的として, 平成11年度より若手研究者の交流事業を実施しています. 平成27年和歌山県で開催される第70回日本体力医学会大会では, 日本, ヨーロッパその他の海外の若手研究者の参加による「国際セッション」を開催する予定です.

奮ってご応募くださるようお願い申し上げます. 詳細に関しては第2報でお知らせいたします.

第69回日本体力医学会大会(長崎)を終えて



第69回日本体力医学会大会長
西九州大学教授
長崎大学名誉教授

菅原 正 志

第69回日本体力医学会長崎大会は、2014年9月19日(金)から21日(日)の3日間の日程で長崎市の長崎大学文教キャンパスで開催しました。本学会大会には約1,740名の研究者の参加があり、804演題の一般研究発表が行われました。例年9月の時期は台風の発生が心配されましたが、その影響もなく無事に大会を終えることができましたことを日本体力医学会の会員の皆さんに報告するとともに、大会に参加されご支援・協力くださった賛助団体、関連企業に対して感謝申し上げます。

本大会では、下光輝一理事長をはじめ多くの理事の先生方にシンポジウム開催にご協力をいただき、大変ありがとうございました。また、岐阜(67回)・東京(68回)の大会事務局の関係者の方々から大会運営に関して種々の資料、更には貴重なご助言、ご示唆をいただき長崎大会運営に活用させていただきました。

本大会のプログラムは、大会長講演、特別講演2演題、県民公開講座、学会賞受賞論文表彰および講演、シンポジウム15演題、ワークショップ6演題(実技3演題)、ランチョンセミナー4演題(大塚スポーツ医科学賞講演を含む)、ACSM-JSPFSM交流シンポジウム、国際セッション、一般研究発表804演題(口頭発表287演題、ポスター発表517演題)、持久走大会、機器等展示より構成されました。一般研究発表演題数が800を超えたのは、67回岐阜大会以降です。セッション別では、生活・健康が107題と最多で、次いで運動器94題、加齢・性差74題であります。

本大会のテーマとして「長崎游学～豊かな身体を支える体力医学～」を掲げ、キーワードを予防医学、体力、栄養、環境適応としました。国民健康づくり運動(健康日本21(第二次))では健康寿命の延伸及び生活の質の向上を目的として取組の推進や2020年東京オリンピック・パラリンピックへの貢献を体力医学が発信できるプログラムを組むとの方針で準備を進め、開催をしました。特別講演では、齋藤 寛先生と中路重之先生にお願いしました。齋藤先生は前長崎大学長で専門が衛生学であり、長崎県民の健康の維持増進に貢献され、日頃より生活習慣に運動を実践されておられます。また中路先生は弘前大学大学院医学研究科社会医学講座教授であり、10年以上続けられている岩木健康増進プロジェクトで岩木住民の健康状態の追跡調査や長野県、沖縄県との平均寿命サミット開催等を通して青森県民の健康推進に取り組まれてお

られるということをお願いいたしました。県民公開講座は、第22回日本発汗学会と第28回運動と体温の研究会との合同で企画し、この10月に国体が開催されることもあり期間中の残暑による熱中症予防の観点より松本孝朗先生（中京大学）と中井誠一先生（京都女子大学）をお願いいたしました。シンポジウムに関しては企画担当の若い先生より学会テーマにより計画していただきました。今大会ではACSM-JSPFSM交流シンポジウムが組み入れられ、学会理事の永富良一先生に労をお願いしました。ランチョンセミナーは、公益財団法人健康・体力づくり事業団、独立行政法人国立健康・栄養研究所、大塚製薬株式会社の「大塚スポーツ医・科学賞」、三井製糖株式会社、健康運動指導士養成大学全国連絡協議会の団体により行われました。恒例の持久走大会は今年も最終日の9月21日午前7時スタートで行われました。大会は5kmの自由走と時間予告走で構成され、61名の先生方が参加されました。大学内の建物の間を縫うようなコースでやや走りにくかった様ですが、全員完走されました。福岡大学の桧垣靖樹先生、ご協力有り難うございました。

本学会大会の参加人数は予想を上回る人数になったため、発表会場がやや手狭になったところもあり、皆様方にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

これからの日本体力医学会の益々の発展を祈念するとともに、次回、和歌山大会で多くの先生方と再会できることを楽しみにしております。会員の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。

最後になりますが、本大会開催に際しては、会員数が少ない長崎にあって、6名のスタッフに大変な負担をお掛けしました。副大会長・事務局長の田井村明博先生（長崎大学水産・環境科学総合研究科）、実行委委員長の中垣内真樹先生（長崎大学医歯薬学総合研究科）、プログラム企画の福田理香先生（活水女子大学）及び小野悠介先生（長崎大学医歯薬学総合研究科）、総務の飛奈卓郎先生（長崎県立大学シーボルト校）及び熊谷賢哉先生（長崎国際大学）の各先生方には、一昨年の10月より長期間にわたって大会準備にご尽力いただき有り難うございました。また、大会準備から運営までを実際に行って頂きました株式会社コンベンションリンクージの山下 愛様、有吉洋介様、抄録作成に尽力いただいた鶴岡印刷の佐藤様、その他ご協力をいただいた皆様方に心より感謝申し上げます。

一般社団法人 日本体力医学会 定款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、一般社団法人日本体力医学会と称する。英語名は、The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicineと表示する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都文京区に置く。

2 この法人は、理事会の決議により、従たる事務所を必要な地に設置することができる。

(地方会)

第3条 この法人は、社員総会の議決を経て、地方会を置くことができる。

2 地方会の組織及び運営に関し必要な規定は、理事会において定める。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第4条 この法人は、日本国内外における体力ならびにスポーツ医科学に関する研究の進歩、発展を促進し、研究の連絡協力を図るとともに、その成果の活用をはかり、もって我が国の学術の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第5条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 体力医学に関する学術講演会などの開催
- (2) 機関誌その他の刊行物の発行
- (3) この法人が関係する内外の関連団体との連絡及び協力
- (4) 研修会の実施と称号の授与
- (5) 体力医学の振興ならびに、普及、啓発
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(学術講演会)

第6条 学術講演会は、毎年1回以上開いて会員の業績を発表する。

2 国民体育大会行事の一環として行われる学術講演会は、この法人の学会大会として、原則として国民体育大会の開催地で行われる。

第3章 会 員

(法人の構成員)

第7条 この法人の会員は、次の3種とする。

- (1) 正 会 員 体力医学に関する学識経験を有し、この法人の目的に賛同して入会した個人
- (2) 名誉会員 この法人の発展に関して学術上の功績が特に著名な者で、理事会が推薦し社員総会で承認された個人
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した団体

2 この法人は、正会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般社団・財団法人法」という。）上の社員とする。

(入 会)

第8条 この法人の会員になろうとする者は、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。

(経費の負担)

第9条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、毎年、会員は、社員総会において別に定める額の会費を支払う義務を負う。ただし、名誉会員はこの限りでない。

2 既納の会費は、いかなる場合でも返還しない。

(任意退会)

第10条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除 名)

第11条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、社員総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第12条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第9条の支払義務を2年以上履行しなかったとき。
- (2) 総正会員が同意したとき。
- (3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。

第4章 社員総会

(構成)

第13条 社員総会は、すべての正会員をもって構成する。

(権限)

第14条 社員総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 事業報告及び貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）等の承認
- (5) 会費の額
- (6) 理事会で付議したもの
- (7) 定款の変更
- (8) 解散及び残余財産の処分
- (9) その他社員総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第15条 社員総会は、定時社員総会として毎事業年度終了後3箇月以内に開催するほか、必要がある場合に臨時社員総会を開催する。

(招集)

第16条 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、理事長に対し、社員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、社員総会の招集を請求することができる。

(議長)

第17条 社員総会の議長は、理事長がこれにあたる。

(議決権)

第18条 社員総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

第19条 社員総会の決議は、出席した正会員の議決権の過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行う。
 - (1) 会員の除名
 - (2) 監事の解任
 - (3) 定款の変更
 - (4) 解散
 - (5) その他法令で定められた事項
- 3 社員総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面もしくは電磁的方法をもって議決権を行使し、又は他の正会員を代理人として議決権の行使を委任することができる。
- 4 前項の場合における第1項、第2項の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。

(議事録)

第20条 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

第5章 役員等

(役員の設定)

第21条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 20名以上25名以内
- (2) 監事 4名以内
- 2 理事のうち1名を理事長、2名を副理事長、1名を常務理事とする。
- 3 理事長を一般社団・財団法人法上の代表理事とし、副理事長及び常務理事を業務執行理事とする。

(役員を選任)

- 第22条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。
- 2 理事長、副理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
 - 3 監事は、この法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。
 - 4 役員を選出についての細則は別に定める。

(理事の職務及び権限)

- 第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
 - 3 副理事長及び常務理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人の業務を分担執行し、理事長に事故があるときは、あらかじめ理事会で定めた順序により、その職務を代行する。
 - 4 理事長、副理事長及び常務理事は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

- 第24条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。
- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

- 第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げないが、連続4期までとする。
- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げないが、連続3期までとする。
 - 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
 - 4 理事又は監事は、第21条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

- 第26条 理事及び監事は、社員総会の決議によって解任することができる。

(役員報酬等)

- 第27条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、社員総会において定める総額の範囲内で、社員総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

第6章 理事会**(構成)**

- 第28条 この法人に理事会を置く。
- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

- 第29条 理事会は、次の職務を行う。
- (1) この法人の業務執行の決定
 - (2) 理事の職務の執行の監督
 - (3) 理事長、副理事長及び常務理事の選定及び解職
 - (4) 社員総会に付議すべき事項の決定
 - (5) 細則及び規則類の制定、同改廃の決定

(招集)

- 第30条 理事会は、理事長が招集する。

(議長)

- 第31条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

(決議)

- 第32条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定に関わらず、理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることができる理事の全員が書面・メール又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。但し、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

(議事録)

- 第33条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第7章 評議員及び評議員会**(評議員)**

- 第34条 この法人に、評議員を置く。
2 評議員は、理事会で選任する。
3 評議員は、評議員会を構成し、理事会の諮問に応じ、意見を述べることができる。
4 評議員の互選により、評議員会長を置く。

(評議員会)

- 第35条 評議員会は、毎事業年度に一回開催するほか、必要がある場合に開催する。
2 評議員会は、評議員会長が招集する。
3 評議員会の議長は、評議員会長とする。
4 評議員会は、理事会の諮問に応じ、第14条に定める社員総会の決議事項のほか、この法人の運営全般について意見を述べるができる。
5 評議員会の決議は、評議員現在数の過半数が出席し、出席した当該評議員の過半数をもって行う。

第8章 資産及び会計**(事業年度)**

- 第36条 この法人の事業年度は、毎年8月1日に始まり翌年7月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

- 第37条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。
2 前項の書類については、主たる事務所（及び従たる事務所）に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。
3 第1項で承認された事業計画・収支予算は直近の社員総会に報告しなければならない。

(事業報告及び決算)

- 第38条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経て、定時社員総会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。
(1) 事業報告
(2) 事業報告の附属明細書
(3) 貸借対照表
(4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間（また、従たる事務所に3年間）備え置くものとする。
(1) 監査報告
(2) 理事及び監事の名簿

(剰余金の分配)

- 第39条 この法人は、剰余金の分配は行わない。

第9章 定款の変更及び解散**(定款の変更)**

- 第40条 この定款は、社員総会の決議によって変更することができる。

(解 散)

- 第41条 この法人は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

- 第42条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第10章 公告の方法**(公告の方法)**

- 第43条 この法人の公告は、この法人の主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第11章 事務局

(事務局の設置等)

- 第44条 この法人の事務を処理するために、事務局を設置する。
- 2 事務局には、所要の職員を置く。
 - 3 職員は、理事長が理事会の承認を得て任免する。
 - 4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により理事長が別に定める。

第12章 補 則

(委 任)

- 第45条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関する事項は、理事会の決議により別に定める。ただし、この定款の施行についての細則は、理事会及び社員総会の決議を経て、別に定める。

附 則

- 1 この法人は、その主たる事務所の所在地において設立の登記をすることにより成立する。
- 2 任意団体の日本体力医学会の正会員、名誉会員、賛助会員であつて、第7条に規定する正会員、賛助会員の資格を有する者及び団体は、第8条の規定にかかわらずこの法人成立の日にこの法人に入会したものとみなす。
- 3 任意団体の日本体力医学会の評議員は、この法人成立の日にこの法人の評議員に選任されたものとみなす。
- 4 この法人の最初の理事の任期は、平成27年開催予定の定時社員総会終結の時までとする。
- 5 第7条第2項の規定にかかわらず、この法人の設立時社員は、次のとおりとする。

設立時社員（住所記載省略）	下 光 輝 一
設立時社員（住所記載省略）	小 野 寺 昇
- 6 この法人の設立時役員は、次のとおりとする。

設立時理事	荒 尾 孝
設立時理事	碓 井 外 幸
設立時理事	大 野 誠
設立時理事	小 野 寺 昇
設立時理事	勝 村 俊 仁
設立時理事	川 久 保 清
設立時理事	川 原 貴
設立時理事	栗 原 敏
設立時理事	坂 本 静 男
設立時理事	定 本 朋 子
設立時理事	下 光 輝 一
設立時理事	下 村 吉 治
設立時理事	鈴 木 政 登
設立時理事	武 政 徹
設立時理事	竹 森 重
設立時理事	田 中 喜 代 次
設立時理事	田 中 宏 暁
設立時理事	田 畑 泉
設立時理事	鳥 居 俊
設立時理事	永 富 良 一
設立時理事	西 平 賀 昭
設立時理事	浜 岡 隆 文
設立時理事	福 永 哲 夫
設立時理事	山 内 秀 樹
設立時理事	吉 岡 利 忠
設立時代表理事	下 光 輝 一
設立時監事	小 林 康 孝
設立時監事	能 勢 博

一般社団法人 日本体力医学会 定款施行細則

第1章 通 則

第1条 一般社団法人日本体力医学会定款第45条に基づき、会費、役員及び評議員の選出、委員会、学術集会等に関する諸規程を設ける。

第2章 会 費

第2条 この法人の会費は、次のとおりとする。

- (1) 正 会 員 年額 10,000円
- (2) 賛助会員 年額 1口以上（1口50,000円）
- 2 会費は年度末までにそれぞれ納入しなければならない。
- 3 正会員ならびに名誉会員は、学術講演会及び機関誌に業績を発表することができ、また、機関誌等の頒布を受けるものとする。
- 4 賛助会員は、機関誌の頒布を受けるものとする。

第3章 評議員の選出等

第3条 評議員の選出は、推薦された評議員候補のうちから選考委員会の議を経て、評議員会で選任する。

- 2 評議員の選出に必要な事項は、別に「評議員選考内規」に定める。

第4章 理事候補及び監事候補の選出等

第4条 理事候補者及び監事候補者は、別に定める「選挙管理規程」に従い、評議員による選挙によって選出する。

第5章 委 員 会

第5条 この法人にその事業遂行のために、次の常設委員会を置く。

- (1) 総務委員会
- (2) 編集委員会
- (3) 学術委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 評議員選考委員会
- (6) 渉外委員会
- (7) 倫理委員会
- (8) 利益相反委員会
- 2 各常設委員会の任務、任期、定員等は、別に定める。

第6条 この法人に、常設委員会の他、総会又は理事会の決議により必要があると認めるときは特定の事項を行わせるため特別委員会を置くことができる。

第6章 学術講演会、大会長等

第7条 学術大会に大会長を置く。

第8条 大会長は、理事会が推薦し、社員総会で選任する。

- 2 大会長は、当該年度の学術集会を組織し運営にあたる。
- 3 学術集会の運営等に関する規程は、別に定める。

第9条 大会長は、理事長の判断により必要な理事会に出席する。但し、議決権を持たない。

第10条 この法人は、理事会の議を経て、学術講演会、研修会、市民公開講座等を開催できることとする。

第7章 顧 問

第11条 この法人に、1名以上5名以内の顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、この法人における理事長の経歴を有する者で、次の職務を行う。
 - (1) 理事長の相談に応ずること。
 - (2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること。
- 3 顧問の選任及び解職は、理事会において決議する。
- 4 顧問は、無報酬とする。

第8章 表 彰

第12条 この法人は、日本体力医学会学会賞等を設ける。各賞に関する事項は、学会賞選考委員会規程に定める。

第9章 補 則

第13条 この細則の変更は、社員総会の決議を経なければならない。

附 則

1. この細則は、この法人成立の日から施行する。



体力科学投稿規定

改訂：2014（平成26）年5月16日

I. 投稿資格

本誌への投稿は本学会の会員・非会員を問わない。また、編集委員会が必要と認めた場合、会員・非会員を問わず投稿を依頼することができる。

II. 掲載採否・順序

原稿の採否は、原則として2名の査読審査により編集委員会にて決定する。査読者からの意見やコメント等は2ヶ月以内に修正した論文を提出する。期限内に提出されなかった論文は不採択とする。掲載は原則として採択順とする。

III. 原稿の種類

総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）、教育講座、抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）とし、原則として和文のみとする。

- A. オンライン投稿：投稿総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）とする。
- B. 依頼総説、教育講座、地方会抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを使用せず、以下のE-mailアドレスへ添付ファイルで投稿する。

hj-tairyoku@turui.co.jp

IV. 原稿一般規定

ヒトおよび実験動物を対象とした研究の原著、ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）では、当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは実験動物委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記し、承認番号を記載するものとする。掲載された論文の著作権は日本体力医学学会に帰属する。

- A. 使用ソフトウェア：下記の汎用ファイルで作成する。
 - 本文ファイル：Microsoft Office Word
 - 図表ファイル：Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG
- B. 用紙設定：和文、英文抄録ともに、用紙設定をA4判とし、上下左右3cmの余白を設け、左側に行番号を入れ、一段組みで10.5ポイント以上の文字でダブルスペースにて入力する。
- C. 用語：日本医学会医学用語管理委員会編「日本医学会用語辞典」英和改訂第3版（2007年出版）、和英（1994年出版）を参照する。
- D. 文体：原稿は、平かな、新かなづかい。当用漢字、外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語、外来語、動植物名などは片かな、数字はアラビア数字を使用する。
- E. 単位及び単位記号：原則として国際単位系（SI）に従うが、当該領域で慣用されているものはこの限りではない。
- F. 図表：説明は英文で適切な題目をつけ、それに続いて図表の内容が理解できる説明を別紙に記載する。
- G. 掲載料及び別刷料：筆頭著者が本学会会員の場合、1編につき刷り上がり6頁までは本学会が負担する。（2,400字が刷り上がり1頁に相当する）
6頁を超過した場合、1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
筆頭著者が非会員の場合、全頁について1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
別刷料は著者負担とする。尚、論文掲載後に正誤表を新たに追加する際、その料金は著者負担とし、1頁につき6,000円の掲載料を負担する。

H. 校正：編集委員会の決定した期日内で、校正はすべて著者の責任により行う。

I. 投稿についての問い合わせ

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局宛

〔電話FAX 共通 0235-22-3120〕 E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

V. 投稿規定

A. 原著および総説

1. 論文は独創性に富み、未投稿の研究論文とする。1頁目には、表題、著者名、共著者名、所属機関名、所在地の各（和・英）と、別刷希望部数を明記する。2頁目には英文抄録とKey words、3頁目以降に緒言、方法、結果、考察、引用文献、図の説明の順に記載する（図表の挿入位置は本文に赤で示す）。表および図は本文原稿とは別に作成する。また、表および図の中の文字および説明は、英語表記とする。
2. 原稿には英文抄録（Abstract：研究目的、方法、結果、結論などを含めて250words以内で記載）およびその和訳文を付ける。またランニングタイトルは、和文で20字以内を明記し、Key words（5語以内）を付ける。Key wordsはMedical Subject Headings（国立医学図書館：最新号）を参考にする。
3. 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩か著者名の右肩に、末尾の引用文献に照応する番号を付ける。3人以上の共著の場合は“ら”“et al.”を用いる。

例1：長島¹⁾によれば……………

例2：手島と角田²⁾によれば……………

例3：馬ら³⁾によれば……………

4. 文献表の作り方

- 1) 引用文献の記載順序は本文中の引用順に整理して、本文中の番号と照合する。文献表の著者名は“ら”、“et al.”と省略せず、全著者名を列記する。人名の記載順は姓を先にして名を後にする。本文中に引用されていない文献は、文献表に記載しない。

2) 雑誌から直接引用する場合

番号、著者名：論文表題、掲載雑誌、巻：頁（始頁－終頁）、西暦年数の順に記す。

例1：長島未央子：長時間自転車運動が鍛練者の酸化ストレス度及び血中ビタミン濃度に及ぼす影響, 体力科学, 60: 279-286, 2011.

例2：手島貴範, 角田直也：身長相対発育からみた男子サッカー選手の大腿部筋厚発育とボールキック能力の発達, 体力科学, 60: 195-205, 2011.

例3：馬 佳濛, 柴田 愛, 村岡 功：インターネットを利用する中国成人における推奨身体活動充足に関連する社会人口統計学的要因, 体力科学, 60: 185-193, 2011.

3) 単行本から引用する場合

番号、著者または編者名、章名、書名（章名がある場合は書名をイタリック体にする）、版数（括弧に入れる）、編者名（章著者がある場合）、発行所、発行所の所在地、引用頁、西暦年数の順に記す。

例：彼末一之, 中島敏博. 4. 神経機構 I - 温度求心路と体温調節「中枢」-, 脳と体温 - 暑熱・寒冷環境との戦い -, 共立出版, 東京, 72-97, 2000.

4) 訳本から引用する場合

著者名, (訳者名), タイトル, 出版社, 地名, ページ, 出版年の順に記す。

例：アメリカスポーツ医学協会編（日本体力医学会体力科学編集委員会監訳）、運動処方の指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第8版, 南江堂, 東京, 57-108, 2011.



5) 欧文の雑誌と単行本から引用する場合

例 1 : Steinberg SF. The molecular basis for distinct β -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111, 1999.

例 2 : Bajotto G, Shimomura Y. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247, 2006.

例 3 : Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K, Imaizumi K. Effects of the β_2 -agonist clenbuterol on β_1 -, and β_2 -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400, 2008.

例 4 : Shimomura Y, Murakami T, Nakai N, Nagosaka M. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress Vol.1* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA, 89-116, 2001.

B. ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）

原著及び総説の投稿規定に準ずる。但し、ノートおよび事例報告（症例報告を含む）は原則として刷り上がり4頁以内、図表は2点までとする。

C. 依頼総説および教育講座

1. 依頼総説および教育講座は、体力科学編集委員会の依頼による。

2. 原稿について

1) 依頼原稿は刷り上がり10頁以内を原則とする。

2) いずれの原稿も表題、著者名、所属などは体力科学投稿規定V-Aに準じて英文名を附す。教育講座では必ずしも英文抄録を必要としないが、依頼総説では体力科学投稿規定V-Aに準ずる。

D. 体力科学6号（大会号）の抄録

1. 演題申し込みと同様、学会大会のホームページ上で登録する。

2. 形式、提出日等は大会要項に従う。原稿は一編840字以内とする。

※地方会、大会抄録とも提出期限に遅れた場合、本誌に掲載されない。

E. 地方会の抄録

原稿は、一編900字以内で表題、著者名、所属、本文を和文で記す。

F. その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）

※Letter to the Editorの項では、本誌に掲載された原著、総説、その他の掲載内容についての質問、疑問、コメント等を編集委員会に寄せ、それに対する回答を執筆者に求め、その内容を掲載する。質問者も回答者もすべて実名とする。

VI. 倫理・利益相反

A. 人体ならびにヒト組織を対象とした科学研究を取り扱う論文では、その実験は1964年のヘルシンキ宣言（<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>）で承認された倫理基準、または臨床研究の倫理基準（<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html#4>）に従って実施されなければならない。また、ヒト遺伝子を取り扱う実験は、日本政府のヒトゲノム・遺伝子解析研究（http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html）に従ってなされなければならない。日本体力医学会編集委員会では、所属機関の倫理委員会の承認を得た後に実施された研究に限ってその論文の投稿を受け付ける。当該研究がこれらのガイドラインに従って実施されたことを投稿論文内に明記し、さらに所属機関の倫理委員会が発行した

承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。

- B. 実験動物を対象とした研究においては、わが国の動物実験関連法規・指針を遵守して実施されなければならない。投稿論文内にはその旨を必ず明記し、所属機関の実験動物委員会等が発行した当該動物実験承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。
- C. 総説、原著論文、それに準ずる論文を投稿する際、日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反（COI）に関する指針（http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm）に基づき、該当する場合には（「自己申告による利益相反申告書」（別紙様式1））に記入し、併せて編集事務局に提出するものとする。定められた利益相反状態に該当しない場合は、論文末尾に「利益相反自己申告：申告すべきものはなし」と記載するものとする。

附：投稿論文の種類は概ね次の基準によって分類される。

- 1) 原著：独創的研究で新しい事実と価値ある結論を有するもので、体力科学・スポーツ医学の進歩に貢献するものとする。
- 2) ノート：原著より短い、新しい事実や価値ある結論が含まれるものとする。
- 3) 資料：適切な分析法または調査法による有用な結果が含まれ、公表することにより体力科学・スポーツ医学の分野において会員の研究・実践活動に有用な情報を含むものとする。
- 4) 事例報告(症例報告を含む)：運動・スポーツ等による体力医学・スポーツ医学の立場からみた様々な効果または治療・指導効果等の事例報告。

論文の分類

I 生理科学的研究

- I - 1 神経, 感覚
 - I - 1 - a 末梢神経
 - I - 1 - b 中枢神経
 - I - 1 - c 感覚
 - I - 1 - d 運動制御
- I - 2 運動器
 - I - 2 - a 筋生理
 - I - 2 - b 筋生化学
 - I - 2 - c 骨, 関節
- I - 3 呼吸, 循環
 - I - 3 - a 呼吸
 - I - 3 - b 心臓
 - I - 3 - c 末梢循環
- I - 4 血液, 免疫
 - I - 4 - a 血液
 - I - 4 - b 免疫
- I - 5 体液, 内分泌
 - I - 5 - a 体液, 汗, 尿
 - I - 5 - b 内分泌
- I - 6 代謝
 - I - 6 - a エネルギー代謝
 - I - 6 - b 糖代謝
 - I - 6 - c 蛋白代謝
 - I - 6 - d 脂質代謝
- I - 7 栄養, 消化
 - I - 7 - a 栄養
 - I - 7 - b 消化, 吸収
- I - 8 形態, 体構成
- I - 9 加齢, 性差
 - I - 9 - a 発育発達
 - I - 9 - b 老化
 - I - 9 - c 性差
- I - 10 環境
 - I - 10 - a 温湿度
 - I - 10 - b 気圧, 風圧
 - I - 10 - c 低酸素
 - I - 10 - d 高酸素

- I - 11 トレーニング
 - I - 11 - a 呼吸, 循環
 - I - 11 - b 代謝
 - I - 11 - c 筋骨格系他
 - I - 11 - d 体組成
 - I - 11 - e その他
- I - 12 生活, 健康
 - I - 12 - a 休養, 疲労
 - I - 12 - b 健康管理
 - I - 12 - c 疫学
- I - 13 バイオメカニクス
 - I - 13 - a 力学的情報
 - I - 13 - b 動作分析
 - I - 13 - c その他
- I - 14 遺伝子
 - I - 14 - a 遺伝子多型
 - I - 14 - b 遺伝子制御
 - I - 14 - c その他
- I - 15 その他

II スポーツ医学的研究

- II - 1 スポーツと疾患
 - II - 1 - a 呼吸器疾患
 - II - 1 - b 循環器疾患
 - II - 1 - c 代謝疾患
 - II - 1 - d スポーツ外傷
 - II - 1 - e スポーツ障害
 - II - 1 - f スポーツ歯科
 - II - 1 - g その他の疾患
- II - 2 リハビリテーション, 運動療法
 - II - 2 - a リハビリテーション
 - II - 2 - b 運動療法
- II - 3 薬物, ドーピング
- II - 4 スポーツ心理学
- II - 5 その他

JPFSM : Instructions for Authors

September 18, 2014

*An Official Journal of the Japanese Society of
Physical Fitness and Sports Medicine*

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (J. Phys. Fitness Sports Med. : JPFSM) Instructions for Authors

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM) is a scientific journal that publishes peer-reviewed **regular articles, short communications, reviews, short reviews, letters to the editor and proceedings**, based on the principles and theories of modern physical fitness and sports medicine. All aspects of interdisciplinary sciences such as physical fitness, sports medicine, exercise physiology, biomechanics, training sciences and health sciences are covered. The Journal will publish original and innovative submissions in English from both members and non-members of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, on the understanding that the work is unpublished (except in abstract form) and is not being considered for publication elsewhere. The process of obtaining results must be ethically sound.

Only manuscripts that are written in clear and concise English will be accepted for review. For non-native English-speaking authors, please note that only manuscripts that have already been checked and edited by a native English-speaking person with sufficient scientific knowledge will be accepted. English editing and revision will be conducted on manuscripts whose English grammar, spelling, *etc.* is judged to be inadequate by the Editorial Board of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

1. TYPES OF MANUSCRIPT(S)

The Journal publishes six types of manuscript(s):

- 1) **Regular Articles:** The manuscript being submitted must consist of original research performed by the authors and the research must include new information that is of significance. These articles should be 10 or less printed journal pages.
- 2) **Short Communications:** The manuscripts being submitted must consist of original research performed by the authors and the research must include preliminary or more limited research results, but of general or special interest. Manuscripts containing interesting findings without detailed discussion, research results of narrow scope of a predominantly negative nature may also be suitable for publication as *Short Communications*. These articles should be 4 or less printed pages.
- 3) **Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and encompass recent important scientific discoveries. Volunteered reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board. Reviews are more broad based and these articles should be 10 or less printed pages.
- 4) **Short Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and will mainly describe recent research results from the authors own laboratories. Volunteered short reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board and these articles should be 4 or less printed pages.
- 5) **Letter to the Editor:** Constructive comments and data on papers published in this Journal will be considered. An opportunity will be provided for rebuttal to the authors in question. A letter, data and the authors reply are limited to a printed page each.
- 6) **Proceedings:** The Proceedings on the Annual Meeting of this Society will be published in abstract form.

2. REVIEWS

- 1) With the exception of Invited Reviews and Short Reviews, manuscripts will be reviewed by two or more



referees, whose opinions will form the basis of the final decision by the editor.

- 2) The manuscripts in the invited Reviews and Short Reviews will be reviewed by the Editorial Board members.
- 3) Please submit the revised manuscript no later than two months from the date of notation of manuscript revision by the editor. A manuscript that is not revised within two months may be rejected.

3. SUBMISSION GUIDELINES

The manuscript must be submitted from "J-STAGE online submission and review system".

<http://www.editorialmanager.com/jpfsm/>

4. CONTACT US

Editorial office of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine

Tsuruoka Printing Co., 1-1 Doai, Oyodogawa, Tsuruoka-shi, Yamagata-ken 997-0854, Japan

E-mail: hj-tairyoku@turui.co.jp

5. MANUSCRIPT PREPARATION

1) Cover Letter

The “Required Submission Form” should be attached with the manuscript as a cover letter. It should include information on the corresponding author (the corresponding author’s name, affiliation and address, telephone/fax numbers, and e-mail address), and for non-native English-speaking authors, the name of the native English speaker and company that checked the manuscript for correct English usage. For contributions from Japan, the corresponding author’s name and address should be written in Japanese as well as English.

Please insert supporting documents such as a copy of the approval letter from the ethics committee, certificate of editing by a qualified native speaker, etc.

Upon acceptance of an article by the Journal, the abstract will be published on the homepage of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

2) Manuscript

Please use Times New Roman 12pt font double-spaced (80 strokes×26 lines) on A4 size paper, single sided and line-numbered throughout.

(1) Title page The title page (page 1) should start with the type of manuscript (Regular Article, Short Communication, Review, *etc.*), the title, name(s) of the author(s), affiliation(s), mailing address(es), number of tables and figures, a brief running title (70 characters or less). Please indicate the corresponding author’s e-mail address in the footnote. An asterisk(*) should be added to the right of the corresponding author’s name.

(2) Abstract and Keywords Page 2 should contain a abstract no longer than 250 words, as well as 3 to 6 descriptive keywords, listed in decreasing order of importance. The keywords must be independent, as they will be used in a keyword combination in the index (within 80 characters). Page 3 should contain the title, affiliation(s), author(s) names and abstract in Japanese.

(3) Main text The text (“Introduction”, “Materials and Methods”, “Results” and “Discussion”. “Results” and “Discussion” may also be combined as “Results and Discussion”), acknowledgments, and references should be presented in this order. After a manuscript has been accepted, you will requested to formally submit your paper in electronic format.

6. MANUSCRIPT FORM

1) Affiliations When there are two or more authors and they belong to more than one affiliation, the connection between each author and his or her affiliation should be indicated by italicized superscript *1, 2, 3...* placed after each author’s name and before each affiliation.

Examples for describing affiliations and mailing addresses:

¹ *Laboratory of Physiological Sciences, Faculty of Human Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan*

² *Laboratory of Biomechanics, Faculty of Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa,*

Saitama 359-1192, Japan

³ Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University, 1-61-1 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, Japan

⁴ Laboratory of Applied Biochemistry, Faculty of Science and Engineering, Waseda University, 3-4-1 Oukubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8555, Japan

2) Abbreviations Abbreviations must be spelled out in full at their initial appearance, followed by the abbreviation in parentheses. Thereafter, only the abbreviation is necessary. Please limit to an absolute minimum the use of abbreviations in the title. However, the following need not be defined: AMP, ADP, ATP, cAMP, cDNA, CoA, DNA, RNA, mRNA, LD₅₀, FAD, FMN, GMP, P450, etc.

3) Units The following units should be used: length (m, cm, mm, μ m, nm), mass (kg, g, mg, μ g, ng, pg, mol, mmol, μ mol, nmol), volume (l, ml, μ l), time (s, min, h, d), temperature ($^{\circ}$ C, K), radiation (Bq, Ci, dpm, Gy, rad), and concentration (M, mM, mol/l, mmol/l, mg/ml, μ g/ml, ng/ml, pg/ml, %, %(v/v), %(w/v), ppm, ppb).

4) Nomenclature The nomenclature used for chemical compounds shall be in accordance with the nomenclature rules of the IUPAC.

5) Tables Using the same word-processing software as used for text, create tables on an A4 page numbered sequentially with Arabic numbers (e.g., Table 1). Give the title at the top of each table, and footnotes, legend etc. under the table.

6) Figures Use figures directly created as camera-ready copy. Place each figure on an A4 page and number sequentially with Arabic numerals (e.g., Fig. 1). Titles and footnotes, descriptions etc. should be given on a separate page, under the heading "Figure Legend".

Drawings prepared with the aid of software packages are acceptable as long as they are high-quality print-out ready. Drawings prepared for oral presentation are seldom suitable for use in printed documents. All figures should be marked with the first author's name and number in the lower right corner of each sheet.

The appropriate location of each table or figure embedded in the text should be indicated in red ink in the margin of the manuscript. Duplication of data in tables and figures should be avoided. The cost of color reproduction of figures will be charged to the author(s).

7) References References should be restricted to only those that are essential, and extensive review of the literature should be avoided. References cited in the text should be numbered (in *italic*) in order of appearance and listed at the end of the text.

Examples of references are as follows:

- 1) Steinberg SF. 1999. The molecular basis for distinct β -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111.
- 2) Bajotto G and Shimomura Y. 2006. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247.
- 3) Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K and Imaizumi K. 2008. Effects of the β_2 -agonist clenbuterol on β_1 -, and β_2 -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400.
- 4) Shimomura Y, Murakami T, Nakai N and Nagosaka M. 2001. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), 1: 89-116, Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA.
- 5) Nagashima M. 2011. Effects of endurance exercise on oxidative stress and antioxidant vitamin levels in trained cyclist. *Tairyoku Kagaku (Jpn J Phys Fitness Sports Med)* 60: 279-286 (*in Japanese*).

7. ETHICS / Conflicts of Interest (COI)

1) For manuscripts dealing with scientific investigations involving human subjects and/or human tissues, the experiments should be performed in accordance with the ethical standards formulated in the Helsinki Declaration of 1964 (<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>) and/or the ethical standards for clinical research (<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html#4>), while experiments dealing with the human



genome should be conducted according to the Japanese Government's "Ethical Guidelines for Human Genome/ Gene Analysis Research" (http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html). Furthermore, only studies that have been performed after receiving approval from the appropriate Institutional Ethics Committee (IEC) will be accepted for publication. Finally, please clearly state in the manuscript that the study was performed according to the above guidelines, and attach to the cover letter a scanned certificate from the ethics committee.

- 2) Manuscripts describing animal experiments should be conducted in accordance with the experimental animal guidelines of the institution as well as the appropriate government guidelines, such as those published by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. Only manuscripts of experiments conducted in accordance with the appropriate guidelines will be eligible for publication. Finally, please state clearly within the manuscript which guidelines were followed, and that the study was indeed conducted in accordance with the guidelines.
- 3) When submitting reviews, original articles, and articles equivalent to these, the guidelines for a conflict of interest (COI), as related to operations implemented by the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, shall be followed (http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm). In the event the guidelines are partially applicable, (http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm), the relevant portion(s) should be described in the "Declaration of Conflict of Interest by Self-report" (Attached Form 1) and submitted to the Editorial Board. In the event the guidelines are not applicable to the regulated conflict of interest condition, this should be declared by writing "Self-reported Conflict of Interest: Nothing to report" at the end of the article.

8. PROOF READING

The author will be required to proof-read the galley of an accepted manuscript. Major changes at this time will no longer be permitted.

9. PAGE CHARGE

For page charges, see the table below (not including tax). The corresponding Author will be invoiced after publication.

	Page Charge (yen/page)	Color Photo (yen/page)
Regular Article	3,000	15,000
Short Communication	3,000	15,000
Review (submitted)	3,000	15,000
Short Review (submitted)	3,000	15,000
Letter to the Editor	0	0

Invited Reviews and Short Reviews have no page charges.

10. OTHER IMPORTANT POINTS

- 1) In general, after a paper has been reviewed, no authors may be added or deleted from the paper, and the order of the names of the authors cannot be changed.
- 2) The authors are given an opportunity to proofread the galley of an accepted manuscript. No additions and revisions are allowed other than the correction of typographical errors.
- 3) The copyrights of all manuscripts published in the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine belong to the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

Categories covered

1 Nervous and sensory system	2 Motor control	3 Musculoskeletal system
4 Respiratory and circulatory system	5 Hematology and immunology	6 Humor and endocrinology
7 Metabolism	8 Nutrition and digestion	9 Morphology and body composition
10 Aging and gender difference	11 Environmental physiology	12 Exercise-training
13 Lifestyle and health	14 Biomechanics	15 Genes and gene regulation
16 Sports Medicine and diseases	17 Rehabilitation and exercise therapy	18 Drug and doping
19 Sports psychology	20 Miscellaneous	

ご 案 内

〈各種手続方法〉

	連 絡 先	住 所	電 話 番 号	備 考
正会員の入退会 及び住所所属変更	一般社団法人 学会支援機構 日本体力医学会事務局	〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階 E-mail: jspfsm@asas.or.jp	TEL 03(5981)6015 FAX 03(5981)6012	入会は評議員1名の推薦 が必要 入会はHPより登録
正会員の会費納入	〃	〃	〃	年会費 10,000円 (事務局より送付される 所定振込用紙を使用)
購読会員の入退会 及び購読料納入	〃	〃	〃	年間 12,600円
学会誌のバック ナンバーの販売	〃	〃	〃	
賛助会員に関する業務	〃	〃	〃	
和文誌の投稿は http://www.editorialmanager.com/jspfsm/	「体力科学」編集事務局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 E-mail: hj-tairyoku@turui.co.jp	0235(22)3120 TEL, FAX 共通	和文誌「体力科学」 投稿規定はHP参照のこと
英文誌の投稿は http://www.editorialmanager.com/jpfsm/	「JPFISM」編集事務局	〃	〃	英文誌「JPFISM」 投稿規定はHP参照のこと

〈地方会事務局〉

- 北海道地方会 〒060-0811 北海道札幌市北区北11条西7丁目
北海道大学大学院教育学研究院人間発達科学分野
水野 眞佐夫 (事務局長: 瀧澤 一騎)
TEL: 011(706)5440 (FAX共通)
E-mail: takizawa@high.hokudai.ac.jp
- 近畿地方会 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科運動生体医学分野
吉川 貴仁
TEL: 06(6645)3790 FAX: 06(6646)6067
E-mail: tkhr6719@med.osaka-cu.ac.jp
- 東北地方会 〒960-1296 福島県福島市金谷川1
福島大学人間発達文化学類
安田 俊広 (事務局長)
TEL: 024(548)8209 (FAX共通)
E-mail: yasuda@educ.fukushima-u.ac.jp
- 中国・四国地方会 〒701-0193 岡山県倉敷市松島288
川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科
小野寺 昇 (事務局長: 矢野 博己)
TEL: 086(462)1111(内線 54041, 54835)
FAX: 086(464)1109
E-mail: jspfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp
URL: <http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/sports/jspfsm-chushi/>
- 関東地方会 〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1
聖マリアンナ医科大学生理学教室
吉岡 利忠・小林 康孝(帝京平成大学)
TEL: 044(977)3915 (FAX共通)
- 北陸地方会 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1
金沢医科大学病院総合診療センター
田村 暢熙 (事務局長: 中川 明彦)
TEL: 076(286)2211 FAX: 076(218)8090
E-mail: tamura@kanazawa-med.ac.jp
- 東海地方会 〒467-0867 名古屋市瑞穂区春敲町2-13
愛知みずほ大学大学院人間科学研究科
佐藤 祐造
TEL: 052(881)3837 FAX: 052(882)1124
E-mail: uz-sato@mizuho-c.ac.jp

〈FIMS(国際スポーツ医学会)事務局〉

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE MÉDECINE
SPORTIVE (F.I.M.S.)

Secretary General of FIMS:
Prof. Lyle J Micheli, MD, USA
Office: Children's Hospital- 2nd floor, Division of Sports
Medicine, 319 Longwood Avenue,
Boston, MA 02115, UNITED STATES OF AMERICA
Tel: +617 355 6970
Fax: +617 730 0694
Email: michelilyle@aol.com
Alternate Email: stacey.cobban@childrens.harvard.edu

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2014年8月）議事録

日 時：2014年8月29日（金）午後5時30分～7時30分

場 所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議 長：下光輝一理事長

出席者：下光輝一， 碓井外幸， 小野寺昇， 勝村俊仁，
栗原 敏， 坂本静男， 定本朋子， 武政 徹，
竹森 重， 田中宏暁， 永富良一， 浜岡隆文，
福永哲夫， 山内秀樹， 吉岡利忠（各理事），
小林康孝， 能勢 博（各監事），
菅原正志（第69回大会長・長崎），
田島文博（第70回大会長・和歌山）

欠席者：荒尾 孝， 大野 誠， 川久保清， 川原 貴，
下村吉治， 鈴木政登， 田中喜代次， 田畑 泉，
鳥居 俊， 西平賀昭（各理事）

【審議事項】

1. オンライン会員名簿について（事務局）

事務局より今まで冊子体で作成していた会員名簿を，電子版（オンライン会員名簿）にした際のデモンストラーションが行われた。この方法を採用するか否かについては，将来構想検討委員会や広報委員会で引き続き検討を行っていくこととした。

2. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い，訂正等がある場合は申し出ていただくこととし，理事会終了後に承認とすることとした。

3. 持ち回り理事会議決事項の確認について

1) 平成27年度予算／2014年7月10日開催（勝村財務委員長）

持ち回り審議を行った平成27年度予算について，特に異議なく承認されたことが報告された。本予算は2014年6月23日に開催した予算打合せ（出席者：下光輝理事長，小野寺総務委員長，勝村財務委員長，鈴木編集委員長）を元に前回理事会で提示した内容から更新を加えていることが説明された。変更点については，6月23日時点の会員数約4,700名の納入率85%で会費収入を計上していること（85万収入増），在庫分を保持しない（滞納していた会費を納めたとしても，滞納していた時に発行された学会誌は発送しないようにする）ことによる学会誌作成費の減額（220万費用減），海外交流準備金を例年通り100万円で計上すること（50万費用減），冊子体の会員名簿作成を廃止しオンライン会員名簿にすることによる費用削減（500万費用減），ロゴ作成費の新規計上（30万費用増）等により，最終的に約80万円の赤字予算となる旨，説明がなされた。

2) 男女共同参画学協会連絡会の規約改定／2014年7月10日開催（定本男女共同参画推進委員）

持ち回り審議を行った男女共同参画学協会連絡会の規約改定について，特に異議なく承認されたことが報告された。変更点としては紛らわしい文言の整理を行ったとの説明がなされた。

3) 平成27年度事業計画／2014年7月28日開催

（小野寺総務委員長）

持ち回り審議を行った平成27年度事業計画について，特に異議なく承認されたことが報告された。追加承認事項として，渉外委員会から関連国際学会及び国内学会との交流事業を追加することとし，学術委員会から日本体力医学会健康科学アドバイザーの商標登録査定手続きを追加することとした。

4) スポーツ庁設置の提言メンバーへの加入／2014年3月31日開催（下光理事長）

持ち回り審議を行ったスポーツ庁設置の提言メンバーへの加入について，特に異議なく承認されたことが報告された。各理事からの意見については，取り纏めをしている宮地元彦先生に全て渡している旨，報告がなされた。また，その他意見がある場合は，宮地元彦先生にお送りする旨，連絡がなされた。

4. 平成26年度庶務報告について（小野寺総務委員長）

2014年7月31日現在，会員総数4,715名，新入会員294名，退会者390名（内自然退会207名），購読数は160団体であるとの報告がなされた。また，2年以上会費未納者リストが提示され，2年以上会費未納者については第69回長崎大会を期限に自然退会とすることが承認された。

5. 平成26年度事業報告について（小野寺総務委員長）

資料に基づき，平成26年度事業報告について報告がなされ，承認された。

6. 平成26年度会計報告（決算）について

（勝村財務委員長）

収入の部 予算に比べて論文掲載料等収入が約60万円増収，雑収入が約30万円増収（第68回東京大会で使用予定の海外交流事業経費の未払計上差額），第68回東京大会の余剰金の寄付金246,617円があり，年度内収入は48,806,785円であった。

支出の部 予算に比べて事業費は約133万円削減し，管理費は予算より約62万円削減し，予備費30万円を使用しなかった結果，全体の支出が予算額より約225万円削減して，年度内支出としては53,302,895円であった。

以上により当年度収支としては約450万円の赤字となり，次年度繰越金は47,964,690円になったとの報告があった。本決算については公認会計士にチェックが行われている事が併せて報告があり，引き続き能勢監事より監査報告が行われ，平成26年度決算が承認された。

今後の検討課題として，会員のメリットについて，研修会の過去問集の販売促進，研修会・国際交流事業・プロジェクト研究についての在り方について，引き続き検討を行ってほしいと能勢監事より依頼がなされた。

7. 評議員推薦に関する件について

（吉岡評議員選考委員長）

評議員選考委員会において申請者20名に対しての資格審査を行い、その結果会員歴を満たしていない3名に対し、1名は業績が豊富であり評議員として推薦したいと提案があり計18名を評議員として認めた旨の報告があり、2014年度評議員候補者として18名(内、女性2名)を評議員会に推薦することが承認された。

8. 日本体力医学会健康科学アドバイザー継続申請者について(碓井称号委員長)

日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号継続申請者25名の氏名リストが提示され、承認された(内、終身称号は7名)。

9. 第25回スポーツ医学研修会修了試験結果について(碓井称号委員長)

研修会を受講した参加者の内20名が8月3日に修了試験(試験問題50問)を受け、全員が合格した旨と試験の概要について報告がなされ、承認された。

10. ロゴマークについて(小野寺総務委員長)

別紙資料によりロゴマーク案2つが提示された。総務委員会で検討した結果、A案を進めたいと提案があり、承認された。第69回長崎大会で開催する評議員会および社員総会で発表後に、正式に学会HP等に掲載する旨、今後の予定が説明された。

11. 在庫管理について(小野寺総務委員長)

事務局である学会支援機構より、過去の資料(第1回研修会やその当時の理事会資料他)が10箱ほど学会支援機構負担で預かっている資料があると報告があった。本来学会に請求するはずの費用と判明したため(今までは請求していなかった)、今後も預ける場合は費用が掛かると説明があり、理事長はじめ関係役員で資料の内容を確認し、処分をしようか、貸し倉庫と契約して保管を続けるかの判断をすることとなった。

12. その他

1) 健康日本21推進全国連絡協議会について(下光理事長)

別紙資料により健康日本21推進全国連絡協議会への入会申請書が提示された。21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)の推進を図ることを目的としている団体であり、会費は年間1万円であると説明がなされた。審議の結果、活動の趣旨に賛同し入会手続きを進めることとなった。

入会までの手続きについては総務委員会が担当し、入会後の担当は渉外委員会が行っていくこととなった。

2) 平成26年度日本スポーツ体育健康科学学術連合総会について(小野寺総務委員長)

平成26年度日本スポーツ体育健康科学学術連合(以下、学術連合)総会において、来年学術連合の大きなシンポジウムを開催する予定であり、本学会からもテーマを出してほしいと依頼があったとの報告がなされた。

3) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針につ

いて(小野寺総務委員長)

現在厚生労働省のホームページに「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針について」のパブリックコメントを募集(メ切:2014年9月7日)しているとの報告があった。倫理指針の内容を確認した所「侵襲」と「介入」の点が会員の研究活動に支障が出る可能性があるため、本学会からパブリックコメントを出したいとの提案がなされ、承認された。期限が迫っているため、総務委員会・倫理委員会・利益相反委員会でコメント案を作成し、提出することとした。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会(小野寺委員長)

今後の総務委員会の活動予定が以下の通り報告された。

- ・選挙管理規程の作成。
- ・特定資産取扱運用規程の作成。
- ・諸謝金規程の作成。

2) 学術委員会(碓井委員長)

- ・称号委員会(碓井委員長)

8月8日付で「日本体力医学会健康科学アドバイザー」の商標登録の登録査定が完了したと報告があり、手続き完了の為に諸手続きを進めていくとの報告がなされた。

- ・スポーツ医学研修会実行委員会(山内委員長)

本年の研修会は基礎コースを2014年7月11日12日に実施し参加者が29名、応用コースを8月1日2日で開催し参加者22名、修了試験を2014年8月3日に実施し受験者20名であったと報告がなされた。

3) 渉外委員会(永富委員長)

以下の点について報告がなされた。

- ・ACSMに3名の会員を派遣(学会ホームページに掲載済み)。
- ・ECSSのシンポジウムに宮地元彦先生を派遣。
- ・9月の長崎大会にてECSS-YIAの3名を招く予定。
- ・9月の長崎大会にてACSM-JSPFSM交流シンポジウムにACSMからMark Stoutenberg先生、日本医師会から太田玉紀先生・羽鳥裕先生を招聘。
- ・ECSSとの交流シンポジウムを学会ホームページで募集を行う予定。
- ・脳血管病予防に関する包括的リスク管理チャートの次回会議が、9月の長崎大会期間中に開催され本学会から出席ができないため、文書にて意見を述べる予定。

4) 広報委員会(武政委員長)

現在英文のホームページを検討中であり、無料の自動翻訳ツールを検討しているが、予算を使って良い翻訳を行いたいとの依頼がなされた。審議の結果、予算を使用することが認められ、引き続き検討をしていくこととなった。

2. 第69回(長崎)大会の進捗状況(菅原第69回大会長)

1) 演題登録状況

7月末で演題募集を締め切り、一般演題が804演題集まったと報告がなされた。

2) 事前参加状況

事前参加登録は802名と報告がなされた。

3) 会期・会場

会期：平成26年9月19日(金)～21日(日)

会場：長崎大学文教キャンパス

3. 第70回大会(和歌山)の準備状況

(田島第70回大会長)

配布資料により、大会の準備状況等について報告がなされた。

大会長：田島文博(和歌山県立医科大学教授)

副大会長：本山 貢(和歌山大学教授)

会期：2015年9月18日(金)～20日(日)

会場：和歌山県民文化会館、

ホテルアバローム紀の国

テーマ：げん紀の国 和歌山

～オリンピック・パラリンピアンへのスポーツ医学と健康増進体力医学の融合～

運営事務局：株式会社セレスポ事業本部

4. 第71回大会(岩手)の準備状況について (小野寺総務委員長)

配布資料により、大会の準備状況等について報告がなされた。

大会長：立身政信(岩手大学)

副大会長：山崎省一(石巻専修大学)

副大会長：永富良一(東北大学)

会期：2016年9月23日(金)～25日(日)

会場：アイーナ、マリオス

テーマ：東北の再生と復興をめざすスポーツ振興と体力医学

一般社団法人日本体力医学会定例理事会(2014年9月)議事録

日時：2014年9月18日(木) 午後5時30分～7時00分

場所：長崎大学文教キャンパス 教養教育棟1階
A-12教室

議長：下光輝一理事長

出席者：下光輝一、荒尾 孝、碓井外幸、大野 誠、
小野寺昇、勝村俊仁、川原 貴、栗原 敏、
坂本静男、下村吉治、鈴木政登、武政 徹、
竹森 重、田中喜代次、田畑 泉、永富良一、
西平賀昭、山内秀樹、吉岡利忠各理事、
小林康孝監事、
管原正志(第69回大会長・長崎)、
田島文博(第70回大会長・和歌山)、
立身政信(第71回大会長・岩手)

欠席者：川久保清、定本朋子、田中宏暁、鳥居 俊、
浜岡隆文、福永哲夫各理事、能勢 博監事

はじめに第69回長崎大会の管原正志大会長より挨拶をいただいた。

【審議事項】

1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。

2. 日本体力医学会健康科学アドバイザー新規申請者について(碓井称号委員長)

日本体力医学会健康科学アドバイザーの新規申請者7名の氏名リストが提示され、承認された。

3. 男女共同参画学協会連絡会の大規模アンケートフォローアップWG案について

(田畑男女共同参画推進委員長)

男女共同参画学協会連絡会が過去に行ったアンケート調査の2次利用のガイドライン案が提示され、承認

された。

4. 渉外委員会委員の追加について(永富渉外委員長)

提出資料に基づき、以下1名を追加の委員として承認いただきたいとの依頼がなされ、承認された。

宮下政司(東京学芸大学教育学部芸術スポーツ科学系健康スポーツ科学講座准教授)

5. 脳心血管病予防作成に関する包括的リスクチャート作成の費用負担について(永富渉外委員長)

提出資料に基づき、持ち回り審議で事前に回覧している脳心血管病予防作成に関する包括的リスクチャート作成の費用負担について改めて説明がなされた。チャート案の内容及び費用負担について承認をいただきたいとの依頼がなされ、承認された。

6. オンライン会員名簿について (下村将来構想検討委員長)

提出資料に基づき、前回デモンストレーションを行ったオンライン会員名簿システムとは別の会員管理システムについて概要、見積について説明がなされた。機能はアップするが、大幅な費用のアップもあるため、審議の結果、継続審議とした。

7. 財産管理運用規程案について(小野寺総務委員長)

資料に基づき、財産管理運用規程案が提示され、承認された。各地方会の基金について個別に管理・運用していくことになることと説明がなされた。

8. 旅費、謝金等に関する申し合わせ案について (小野寺総務委員長)

資料に基づき、ECSSやACSMの海外招集の際の旅費、謝金等に関する申し合わせ案が提示され、承認された。

9. 選挙管理規程案について（小野寺総務委員長）

提出資料に基づき、選挙管理規程案と役員の選出に関する規定案の内容について議論がなされた。審議の結果、継続審議とした。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会（小野寺委員長）

2017年愛媛大会の大会長を推薦する準備を進めていくとの報告がなされた。

2) 学術委員会（碓井委員長）

9月20日の評議員会、社員総会で体力科学63巻2号247-257掲載の総説「日本の体力医学の源流と変遷（栗原 敏、鈴木 政登、清田 寛）」を参加者に対して配布を行うとの報告がなされた。

・称号委員会（碓井委員長）

商標登録手続きを行っていた「日本体力医学会健康科学アドバイザー」の査定が完了し、8月29日付で登録が行われ、以後10年間有効である事（更新手続きをすればその後も継続）が報告された。

3) 編集委員会（鈴木委員長）

・依頼総説に関して編集委員会で協議し、依頼総説に関しても査読有り論文とする旨、報告がなされた。

・各種声明文を学会HPに掲載し、PubMedへ申請を行った旨、報告がなされた。今年の秋～冬頃に先方の会議で判定が行われる予定である旨、報告がなされた。

・この1年間で、査読依頼をして査読を辞退した方31名、返事がない方9名と計40名の先生方に査読依頼をしてもらえていない現状が報告された。評議員会・社員総会で査読への協力依頼を改めて伝えるとの報告がなされた。

・この1年間でJPFISMの閲覧者が約20,240名おり、アメリカは7,778名、日本5,252名、イギリス1,500名と報告がなされた。閲覧者はいるが、去年158編の論文の内、引用件数は2件に留まっており、委員会でインパクトファクターを上げる工夫を検討していく旨、報告がなされた。

・英文抄録のスケジュールについて、2014年長崎大会及び2015年和歌山大会の社員総会で予告を行い、2016年岩手大会からJPFISM6号に英文抄録を出す旨、報告がなされた。

4) 渉外委員会（永富委員長）

・ACSM

来年もACSMへの大学院生・若手研究者参加助成

（3名：予算30万円）を行う予定である旨、報告がなされた。

・ECSS

交流シンポジウムの企画案を学会HP上で募集を行っているが、2015年ではなく、2016年の企画案である旨、改めて報告がなされた。

・ISPAH (International Society for Physical Activity and Health)

2016年バンコク大会は現在シンポジウムの提案を受付中であること、2020年の開催地は現在募集中である旨、報告がなされた。

5) 広報委員会（武政委員長）

・学会HPの英文化を検討中であること、学会ロゴマークを使用したグッズについて検討を行っている旨、報告がなされた。

6) 利益相反委員会（坂本委員長）

・長崎大会の演題より発表者には最初か最後のスライドに利益相反に関する開示を義務付けたとの報告がなされた。

2. 第70回大会（和歌山）の準備状況

（田島第70回大会長）

第70回大会紹介DVDにより、大会の準備状況等について報告がなされた。

会 期：2015年9月18日(金) - 20日(日)

会 場：和歌山県民文化会館、

ホテルアバローム紀の国

テーマ：げん紀の国 和歌山

～オリンピック・パラリンピアンへのスポーツ

医学と健康増進体力医学の融合～

3. 第71回大会（岩手）の準備状況について

（立身第71回大会長）

配布資料により、大会の準備状況等について報告がなされた。

大会長：立身政信（岩手大学）

副大会長：山崎省一（石巻専修大学）

副大会長：永富良一（東北大学）

会 期：2016年9月23日(金) - 25日(日)

会 場：アイーナ、マリオス

テ ー マ：東北の再生と復興をめざすスポーツ振興と体力医学

一般社団法人日本体力医学会 平成26年度評議員会 議事録

日 時：2014年9月20日(土)

午後4時20分～午後5時20分

場 所：長崎大学文教キャンパス グローバル教育学生
支援棟4階文教スカイホール (C会場)

議 長：下光輝一

出席理事監事：下光輝一, 荒尾 孝, 碓井外幸,
大野 誠, 小野寺昇, 勝村俊仁,
川原 貴, 栗原 敏, 坂本静男,
下村吉治, 鈴木政登, 武政 徹,
竹森 重, 田中喜代次, 田畑 泉,
西平賀昭, 山内秀樹各理事,
小林康孝監事

議事録作成者：下光輝一

議事に先立ち、下記の項目について報告・承認が行われた。

- ・福永哲夫評議員会長が欠席のため、議長を下光輝一理事長が代理で行う旨、了承を得た。
- ・菅原大会長より、挨拶と第69回大会概要の報告が行われた。
- ・評議員会は評議員総数549名の内、委任状出席236名、午後4時15分現在の出席者67名、評議員総数の過半数275名を超えており、成立することが確認された。

【審議事項】

1. 平成26年度庶務報告に関する件

(小野寺総務委員長)

1) 会員総数4,715名(2014年7月31日現在)

名誉会員	30名
正会員	4,661名
外国会員	19名
賛助会員	5団体

公益財団法人石本記念デサントスポーツ科学振興財団、鶴岡印刷株式会社、株式会社ブルボン、公益財団法人明治安田厚生事業団、大正製薬株式会社

2) 役員数

評議員	549名
(内)理事	25名
監事	2名

3) 購読数 160団体

体力科学	157団体
JPFMSM	3団体

4) 年度内入退会状況

新入会員	294名
退会者	390名
(内)申込者	183名
自然退会	207名

2. 平成26年度事業報告に関する件

(小野寺総務委員長)

以下のとおり平成26年度事業報告についての報告がなされた。

1) 事業期間

2013年9月1日～2014年7月31日

2) 委員会活動

・総務委員会

◎大会長の推薦

- 第69回長崎大会長に菅原正志先生(西九州大学)を推薦。
- 第70回和歌山大会長に田島文博先生(和歌山県立医科大学)を推薦。
- 第71回岩手大会長に立身政信先生(岩手大学)を推薦。

◎法人化

- 一般社団法人の定款・施行細則を作成。
- 平成26年4月1日付で登記。

・編集委員会

◎学会誌出版(学会誌刊行に係わる事業及び電子ジャーナル公開)

「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMSM)」

Vol.2, No.4, Vol.3, No.1, No.2

「体力科学」

Vol.62, No.5, No.6, Vol.63, No.1, No.2, No.3

※J-STAGEでの電子ジャーナルの公開を『印刷前公開』として実施した。

「JPFMSM」誌は、Vol.2, No.4より開始。「体力科学」誌は、Vol.63, No.1より開始。

◎「JPFMSM」誌のMEDLINE (PubMed) 収録申請 (2014.2.26)

◎J-STAGE/トムソンロイター (Web of Science) 収録申請) セミナー参加 (2014.6.20)

・学術委員会

◎スポーツ医学研修会実行委員会

○スポーツ医学研修会テキスト第4版の発行 (2014.6.20)

○平成26年度(第25回)スポーツ医学研修会 (I) 基礎コース(平成26年7月11～12日、於東京慈恵会医科大学)参加者:32名

※(II) 応用コース(平成26年8月1～2日、於東京慈恵会医科大学)

※終了試験(平成26年8月3日、於東京慈恵会医科大学)

◎称号委員会

○「日本体力医学会健康科学アドバイザー」申請時に審査(委員会)→承認(理事会)→報告(総会)

◎プロジェクト研究委員会

○平成26年度日本体力医学会プロジェクト研究公募(平成26年4月30日迄)

・財務委員会

平成26年度予算案の作成と予算の適切な執行の確認。

・プログラム委員会

特に報告事項はない。

・評議員選考委員会

主にメール会議で平成26年度の評議員選考を、提出された資料を基に選考し、理事会、評議員会・総会に諮った。

- ・ 渉外委員会
 - ◎海外交流
 - 米国スポーツ医学会（ACSM）参加若手研究者・大学院生の中から優秀演題を選考，トラベルグラントを授与.
 - ヨーロッパスポーツ科学会議（ECSS Amsterdam 2014）において開催された日本体力医学会交流シンポジウム「日欧の身体活動ガイドラインの比較」に宮地元彦先生を派遣. ECSSプログラム委員会において今後の交流シンポジウムについては協議を行い新たな公募プロセスを経ることになった.
 - 長崎大会でのACSM交流シンポジウム，国際セッション(ECSS交流シンポジウム)を企画.
 - ◎国内交流
 - 日本動脈硬化学会および関連学会による「包括的リスク管理合同委員会」にガイドライン検討委員会とともに「動脈硬化疾患包括的リスクガイドライン」の策定に参加.
 - 上述した長崎大会ACSM交流シンポジウムに日本医師会に指定発言者の派遣を依頼.
 - ・ 倫理委員会

学会誌投稿希望者の倫理審査依頼への対応.
 - ・ 将来構想検討委員会

研究の進歩・発展を促進する方策として，学会大会においてPlenary Lecture等を設定すること，また，学会における会員管理を盤石なものにするためのシステム（会員管理システム）の取り入れを推進.
 - ・ 広報委員会

トップページのデザインを大幅に変更し，そこに載せる掲載記事の数を絞るなど，見やすくメッセージが伝わりやすいホームページにリニューアル.
 - ・ 男女共同参画推進委員会
 - ◎委員会を3回開催（2013.9.20，2013.11.15，2014.1.17）.
 - ◎男女共同参画学協会連絡会に日本体力医学会として入会.
 - ◎第69回日本体力医学会大会（長崎）において，男女共同参画を推進する目的のシンポジウム（日本体力医学会新評議員の研究・キャリア）を提案.
 - ・ ガイドライン検討委員会
 - ◎マラソンに取り組む市民ランナーの安全10か条について，第68回日本体力医学会大会シンポジウムにて学会員に周知.
 - ◎学会ホームページに，「ガイドライン等の公募について」（2013.12.5）を掲載.
 - ◎委員会を学会期間中に開催し，日本体力医学会禁煙宣言の作成に着手.
 - ・ 利益相反委員会

「日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反(COI)に関する指標」に基づいた申告書を作成.
- 3) 第68回日本体力医学会大会の実施
 大会長：栗原 敏（学校法人慈恵大学理事長）
 会 期：2013年9月21日(土)～23日(月)

会 場：日本教育会館，学術総合センター，共立講堂
 4) 平成27年度日本体力医学会健康科学アドバイザー
 称号認定者

- ・ 新規 7名（第24回研修会）

井上 淳	大河原仁美	佐野千登志
高橋 清美	田村 由馬	堀内可奈子
柳田 亮		
- ・ 新規 7名（第25回研修会）

阿部 恭子	安藤 朝子	荻澤佳奈
齋藤 史子	佐野 博	馬場美佳子
正村 謙二		
- ・ 継続 18名

相澤 徹	今西 昭雄	内田弘美
榎本 紀行	大崎 栄	大下聖治
北園 忠美	相馬 優樹	高木 聖
高橋 章	高橋 政行	角田憲治
橋本 眞	廣藤千代子	藤原陽子
松本 健三	矢野 史也	吉居尚美
- ・ 終身 7名

江口 泰正	尾泉 博	大仲 功一
田中 悦子	中嶋 佳子	福田 千晶
吉田 俊明		

3. 平成26年度会計（決算）に関する件 （勝村財務委員長）

以下のとおり平成26年度決算についての報告がなされた.

収入の部 予算に比べて論文掲載料等収入が約60万円増収，雑収入が約30万円増収（第68回東京大会で使用予定の海外交流事業経費の未払計上差額），第68回東京大会の余剰金の寄付金246,617円があり，年度内収入は48,806,785円であった.

支出の部 予算に比べて事業費は約133万円削減し，管理費は予算より約62万円削減し，予備費30万円を使用しなかった結果，全体の支出が予算額より約225万円削減して，年度内支出としては53,302,895円であった.

以上により当年度収支としては約450万円の赤字となり，次年度繰越金は47,964,690円になったとの報告があった. 本決算については公認会計士にチェックが行われている事が併せて報告があり，引き続き小林監事より監査報告が行われた.

4. 平成27年度事業計画に関する件 （小野寺総務委員長）

以下のとおり平成27年度事業計画についての報告がなされた.

1) 事業期間

2014年8月1日～2015年7月31日

2) 委員会活動

・ 総務委員会

第72回愛媛大会の大会長の推薦.

・ 編集委員会

体力科学 vol.63-4～64-3及びJPFSM vol.3-4～4-3の作成.

学会大会終了後の抄録を英文とし、JPFISMに掲載運用試行。

- ・学術委員会
 - スポーツ医学研修会の実施。
 - プロジェクト研究の採択。
 - 日本体力医学会健康科学アドバイザー称号の審査実施。
 - 日本体力医学会健康科学アドバイザーの商標登録査定手続き。
 - ・財務委員会
 - 平成28年度予算案の作成。
 - ・プログラム委員会
 - 学会大会のプログラム企画をサポート。
 - ・評議員選考委員会
 - 学会誌などを介した評議員推薦の周知と女性評議員の増加を図る。
 - ・渉外委員会
 - ACSMへの若手会員の派遣。
 - 関連国際学会及び国内学会との交流事業。
 - ・倫理委員会
 - 学会員の倫理的配慮がなされているかを監視。
 - 学会発表、論文発表における倫理規定遵守の推進と監視。
 - ・将来構想検討委員会
 - 大会におけるPlenary Lectureの企画。
 - 現在の学会ホームページで会員名簿検索機能を持たせることが可能かを検討。
 - ・広報委員会
 - ホームページの充実、その他本学会に関わる事項の広報活動。
 - ・男女共同参画推進委員会
 - 学会大会で男女共同参画推進のためのシンポジウムを開催。
 - ・ガイドライン検討委員会
 - 禁煙宣言の作成。
 - 「脳血管疾患・虚血性心疾患予防のための診療ガイド（仮）」策定への協力。
 - ・利益相反委員会
 - 利益相反に関する指針の改定。
- 3) 第69回日本体力医学会大会の準備
 大会長：菅原正志（西九州大学教授，長崎大学名誉教授）
 会 期：2014年9月19日（金）～21日（日）
 会 場：長崎大学文教キャンパス

4) 第70回日本体力医学会大会の準備
 大会長：田島文博（和歌山県立医科大学リハビリテーション科教授）

会 期：2015年9月18日（金）～20日（日）
 会 場：和歌山県民文化会館，
 ホテルアバローム紀の国

5) 第71回日本体力医学会大会の準備
 大会長：立身政信（岩手大学保健管理センター教授）
 会 期：2016年9月23日（金）～25日（日）
 会 場：マリオス，アイーナ

5. 平成27年度会計報告（予算）に関する件（勝村財務委員長）

平成27年度予算案が提示され，次年度予算と大きく異なる点として，下記の項目について説明が行われた。

- ・在庫分を保持しない（滞納していた会費を納めたとしても，滞納していた時に発行された学会誌は発送しないようにする）ことによる学会誌作成費の減額。
- ・冊子体の会員名簿作成を廃止しオンライン会員名簿にすることによる費用削減。
- ・ロゴ作成費の新規計上。
- ・地方会会計と大会会計を本部会計と合算。

また，それ以外の項目についてはほぼ前年度通り計上し，平成27年度の当期収支としては808,755円の赤字となる旨の報告がなされた（収入合計90,701,183円，支出合計89,892,428円の予定）。

6. 評議員推薦に関する件（小野寺総務委員長）

平成26年度評議員推薦に関しては20名の推薦があり，評議員選考委員会で評議員選考規定に従って審査を行い，その結果18名について評議員資格を有するとの報告に基づき，審議の結果，承認された。

新評議員（18名）

石道峰典	遠藤隆志	尾方寿好
越智英輔	柿木亮	片山靖富
川島悠	小宮山伴与志	桜井智野風
清水智美	進藤大典	鈴木宏哉
鈴木良雄	竹林秀晃	中澤公孝
星川佳広	光岡かおり	柚木孝敬

7. 学会ロゴマーク推薦に関する件（小野寺総務委員長）

公募をしていた学会ロゴマークについて，正式にデザイナーに発注したロゴマークが，理事会で承認されたとの報告がなされた。

一般社団法人日本体力医学会 平成26年度社員総会 議事録

日 時：2014年9月20日(土)

午後6時20分～午後6時50分

場 所：長崎大学文教キャンパス グローバル教育学生
支援棟4階文教スカイホール (C会場)

議 長：下光輝一

出席理事監事：下光輝一, 荒尾 孝, 碓井外幸,
大野 誠, 小野寺昇, 勝村俊仁,
川原 貴, 坂本静男, 下村吉治,
鈴木政登, 武政 徹, 竹森 重,
田中喜代次, 田畑 泉, 西平賀昭,
山内秀樹各理事, 小林康孝監事

出席社員数：57名(議決権個数57個)

議事録作成者：下光輝一

議事に先立ち、管原大会長より、挨拶と第69回大会概要の報告が行われた。

【審議事項】

1. 平成26年度庶務報告に関する件

(小野寺総務委員長)

1) 会員総数4,715名(2014年7月31日現在)

名誉会員	30名
正会員	4,661名
外国会員	19名
賛助会員	5団体

公益財団法人石本記念デサントスポーツ科学振興財団, 鶴岡印刷株式会社, 株式会社ブルボン, 公益財団法人明治安田厚生事業団, 大正製薬株式会社

2) 役員数

評議員	549名
(内)理事	25名
監事	2名

3) 購読数 160団体

体力科学	157団体
JPFMSM	3団体

4) 年度内入退会状況

新入会員	294名
退会者	390名
(内)申込者	183名
自然退会	207名

2. 平成26年度事業報告に関する件

(小野寺総務委員長)

以下のとおり平成26年度事業報告についての報告がなされ、承認された。

1) 事業期間

2013年9月1日～2014年7月31日

2) 委員会活動

・総務委員会

◎大会長の推薦

○第69回長崎大会長に管原正志先生(西九州大学)を推薦。

○第70回和歌山大会長に田島文博先生(和歌山県立医科大学)を推薦。

○第71回岩手大会長に立身政信先生(岩手大学)を推薦。

◎法人化

○一般社団法人の定款・施行細則を作成。

○平成26年4月1日付で登記。

・編集委員会

◎学会誌出版(学会誌刊行に係わる事業及び電子ジャーナル公開)

「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMSM)」

Vol.2, No.4, Vol.3, No.1, No.2

「体力科学」

Vol.62, No.5, No.6, Vol.63, No.1, No.2, No.3

※J-STAGEでの電子ジャーナルの公開を『印刷前公開』として実施した。

「JPFMSM」誌は、Vol.2, No.4より開始。「体力科学」誌は、Vol.63, No.1より開始。

◎「JPFMSM」誌のMEDLINE (PubMed) 収録申請(2014.2.26)

◎J-STAGE/トムソンロイター (Web of Science 収録申請) セミナー参加(2014.6.20)

・学術委員会

◎スポーツ医学研修会実行委員会

○スポーツ医学研修会テキスト第4版の発行(2014.6.20)

○平成26年度(第25回)スポーツ医学研修会 (I) 基礎コース(平成26年7月11～12日, 於東京慈恵会医科大学)参加者: 32名

※(II) 応用コース(平成26年8月1～2日, 於東京慈恵会医科大学)

※終了試験(平成26年8月3日, 於東京慈恵会医科大学)

◎称号委員会

○「日本体力医学会健康科学アドバイザー」

申請時に審査(委員会)→承認(理事会)→報告(総会)

◎プロジェクト研究委員会

○平成26年度日本体力医学会プロジェクト研究公募(平成26年4月30日迄)

・財務委員会

平成26年度予算案の作成と予算の適切な執行の確認。

・プログラム委員会

特に報告事項はない。

・評議員選考委員会

主にメール会議で平成26年度の評議員選考を、提出された資料を基に選考し、理事会、評議員会・総会に諮った。

・渉外委員会

◎海外交流

○米国スポーツ医学会 (ACSM) 参加若手研究者・大学院生の中から優秀演題を選考、トラベルグラントを授与。

○ヨーロッパスポーツ科学会議 (ECSS Amsterdam 2014) において開催された日本体力

医学会交流シンポジウム「日欧の身体活動ガイドラインの比較」に宮地元彦先生を派遣。ECSSプログラム委員会において今後の交流シンポジウムについては協議を行い新たな公募プロセスを経ることになった。

○長崎大会でのACSM交流シンポジウム、国際セッション(ECSS交流シンポジウム)を企画。

◎国内交流

○日本動脈硬化学会および関連学会による「包括的リスク管理合同委員会」にガイドライン検討委員会とともに「動脈硬化疾患包括的リスクガイドライン」の策定に参加。

○上述した長崎大会ACSM交流シンポジウムに日本医師会に指定発言者の派遣を依頼。

・倫理委員会

学会誌投稿希望者の倫理審査依頼への対応。

・将来構想検討委員会

研究の進歩・発展を促進する方策として、学会大会においてPlenary Lecture等を設定すること、また、学会における会員管理を盤石なものにするためのシステム(会員管理システム)の取り入れを推進。

・広報委員会

トップページのデザインを大幅に変更し、そこに載せる掲載記事の数を絞るなど、見やすくメッセージが伝わりやすいホームページにリニューアル。

・男女共同参画推進委員会

◎委員会を3回開催(2013.9.20, 2013.11.15, 2014.1.17)。

◎男女共同参画学協会連絡会に日本体力医学会として入会。

◎第69回日本体力医学会大会(長崎)において、男女共同参画を推進する目的のシンポジウム(日本体力医学会新評議員の研究・キャリア)を提案。

・ガイドライン検討委員会

◎マラソンに取り組む市民ランナーの安全10か条について、第68回日本体力医学会大会シンポジウムにて学会員に周知。

◎学会ホームページに、「ガイドライン等の公募について」(2013.12.5)を掲載。

◎委員会を学会期間中に開催し、日本体力医学会禁煙宣言の作成に着手。

・利益相反委員会

「日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反(COI)に関する指標」に基づいた申告書を作成。

3) 第68回日本体力医学会大会の実施

大会長: 栗原 敏(学校法人慈恵大学理事長)

会期: 2013年9月21日(土)~23日(月)

会場: 日本教育会館, 学術総合センター, 共立講堂

4) 平成27年度日本体力医学会健康科学アドバイザー称号認定者

・新規 7名(第24回研修会)

井上 淳 大河原仁美 佐野千登志
高橋清美 田村由馬 堀内可奈子
柳田 亮

・新規 7名(第25回研修会)

阿部 恭子 安藤 朝子 荻澤佳奈
齋藤 史子 佐野 博 馬場美佳子

正村 謙二

・継続 18名

相澤 徹 今西 昭雄 内田弘美
榎本紀行 大崎 栄 大下聖治
北園忠美 相馬優樹 高木 聖
高橋 章 高橋政行 角田憲治
橋本 眞 廣藤千代子 藤原陽子
松本健三 矢野史也 吉居尚美

・終身 7名

江口泰正 尾泉 博 大仲功一
田中悦子 中嶋佳子 福田千晶
吉田俊明

3. 平成26年度会計(決算)に関する件

(勝村財務委員長)

以下のとおり平成26年度決算についての報告がなされた。

収入の部 予算に比べて論文掲載料等収入が約60万円増収、雑収入が約30万円増収(第68回東京大会で使用予定の海外交流事業経費の未払計上差額)、第68回東京大会の余剰金の寄付金246,617円があり、年度内収入は48,806,785円であった。

支出の部 予算に比べて事業費は約133万円削減し、管理費は予算より約62万円削減し、予備費30万円を使用しなかった結果、全体の支出が予算額より約225万円削減して、年度内支出としては53,302,895円であった。

以上により当年度収支としては約450万円の赤字となり、次年度繰越金は47,964,690円になったとの報告があった。本決算については公認会計士にチェックが行われている事が併せて報告があり、引き続き小林監事より監査報告が行われ、審議の結果、承認された。

4. 平成27年度事業計画に関する件

(小野寺総務委員長)

以下のとおり平成27年度事業計画についての報告がなされた。

1) 事業期間

2014年8月1日~2015年7月31日

2) 委員会活動

・総務委員会

第72回愛媛大会の大会長の推薦。

・編集委員会

体力科学 vol.63-4~64-3及びJPFISM vol.3-4~4-3の作成。

学会大会終了後の抄録を英文とし、JPFISMに掲載運用試行。

・学術委員会

スポーツ医学研修会の実施。

プロジェクト研究の採択。

日本体力医学会健康科学アドバイザー称号の審査実施。

日本体力医学会健康科学アドバイザーの商標登録
査定手続き。

- ・財務委員会
平成28年度予算案の作成。
 - ・プログラム委員会
学会大会のプログラム企画をサポート。
 - ・評議員選考委員会
学会誌などを介した評議員推薦の周知と女性評議員の増加を図る。
 - ・渉外委員会
ACSMへの若手会員の派遣。
関連国際学会及び国内学会との交流事業。
 - ・倫理委員会
学会員の倫理的配慮がなされているかを監視。
学会発表、論文発表における倫理規定遵守の推進と監視。
 - ・将来構想検討委員会
大会におけるPlenary Lectureの企画。
現在の学会ホームページで会員名簿検索機能を持たせることが可能かを検討。
 - ・広報委員会
ホームページの充実、その他本学会に関わる事項の広報活動。
 - ・男女共同参画推進委員会
学会大会で男女共同参画推進のためのシンポジウムを開催。
 - ・ガイドライン検討委員会
禁煙宣言の作成。
「脳血管疾患・虚血性心疾患予防のための診療ガイド（仮）」策定への協力。
 - ・利益相反委員会
利益相反に関する指針の改定。
- 3) 第69回日本体力医学会大会の準備
大会長：管原正志（西九州大学教授，長崎大学名誉教授）
会 期：2014年9月19日（金）～21日（日）
会 場：長崎大学文教キャンパス
- 4) 第70回日本体力医学会大会の準備
大会長：田島文博（和歌山県立医科大学リハビリテーション科教授）
会 期：2015年9月18日（金）～20日（日）
会 場：和歌山県民文化会館，
ホテルアバローム紀の国
- 5) 第71回日本体力医学会大会の準備
大会長：立身政信（岩手大学保健管理センター教授）
会 期：2016年9月23日（金）～25日（日）
会 場：マリオス，アイーナ

5. 平成27年度会計報告（予算）に関する件 （勝村財務委員長）

平成27年度予算案が提示され，次年度予算と大きく異なる点として，下記の項目について説明が行われた。

- ・在庫分を保持しない（滞納していた会費を納めたとしても，滞納していた時に発行された学会誌は発送しないようにする）ことによる学会誌作成費の減額。
- ・冊子体の会員名簿作成を廃止しオンライン会員名簿にすることによる費用削減。
- ・ロゴ作成費の新規計上。
- ・地方会会計と大会会計を本部会計と合算。

また，それ以外の項目についてはほぼ前年度通り計上し，平成27年度の当期収支としては808,755円の赤字となる旨の報告がなされた（収入合計90,701,183円，支出合計89,892,428円の予定）。

6. 評議員推薦に関する件（小野寺総務委員長）

平成26年度評議員推薦に関しては20名の推薦があり，評議員選考委員会で評議員選考規定に従って審査を行い，その結果18名について評議員資格を有すると報告に基づき，評議員会にて承認された旨，報告がなされた。

新評議員（18名）

石道峰典	遠藤隆志	尾方寿好
越智英輔	柿木 亮	片山靖富
川島 悠	小宮山伴与志	桜井智野風
清水智美	進藤大典	鈴木宏哉
鈴木良雄	竹林秀晃	中澤公孝
星川佳広	光岡かおり	柚木孝敬

7. 学会ロゴマーク推薦に関する件（小野寺総務委員長）

公募をしていた学会ロゴマークについて，正式にデザイナーに発注したロゴマークが，理事会で承認されたとの報告がなされ，審議の結果，承認された。

8. その他

- ・ロゴマークに応募のあった碓井外幸会員，須永美歌子会員の2名を佳作として学会より目録の贈呈式を行った。

2014年度第1回日本体力医学会編集委員会議事録

日時：2014年9月18日(木) 16:00~17:00

場所：長崎大学文教キャンパス 教養教育棟1階
A-12番教室

出席者：鈴木政登(委員長・和文誌「体力科学」編集委員長)
今泉和彦(副委員長・英文誌「JPFMSM」編集委員長)
井澤鉄也, 井上 茂, 後藤勝正, 坂本静男,
竹森 重, 西牟田 守, 八田秀雄, 水野眞佐夫,
宮地元彦, 山内秀樹, 和気秀文(各委員)
(編集事務局: 佐藤信之, 本間佳子, 田中加奈子)

欠席者：石井直方, 石原昭彦, 内田 直, 勝川史憲,
川上泰雄, 木崎節子, 小宮山伴与志, 下村吉治,
新開省二, 鳥居 俊, 内藤久士, 中澤公孝,
成田和穂, 西保 岳, 能勢 博, 藤井宣晴,
藤本繁夫, 宇高 潤(各委員)

【審議事項および報告事項】

- 2013年度第1回編集委員会の議事録が確認された。
- 英文(JPFMSM)誌の依頼総説について、本学会会員より日本体力医学会編集事務局宛に意見があり、この依頼総説等の意見に対する本編集委員会としての見解および基本方針を本学会HPへ4月9日付で掲載したことが報告された。この件については、5月に開催された理事会でも理事の意見を聴取した。その意見を参考にして、JPFMSM誌の投稿規定に“The manuscripts in the invited Reviews and Short Reviews will be reviewed by the Editorial Board members”の文言を加えることが提案され、承認された。
- 委員長より学会賞および奨励賞の受賞者の報告があった。その結果、若手研究者に対する研究の奨励と促進をはかるため、奨励賞の数を増やすよう提案された。これに対し、竹森重編集委員(学会賞選考委員長)より、「学会賞の数に制限があり、JPFMSM掲載論文から奨励賞を選出しなかったのではなく、“体力科学”、“JPFMSM”両誌に掲載された論文を選考対象として和文誌から選ばれた。」との発言があった。また、竹森委員より、「今後、奨励賞の数を増やすには規定の改定が必要となるが、前向きに検討したい。」との発言があった。
- JPFMSM誌のMEDLINE(PubMed)への取載申請(2014.3.3申請済)について、選定会議の結果待ちであることが編集事務局より報告された。
- 2013年12月15日よりJPFMSM誌のオンライン投稿が開始されたことを受け、本学会編集委員会規定の第4

条原稿の投稿(3),(4),(7)2)の修正について、編集事務局より説明された。また委員長より編集委員として委嘱する場合の要件が読み上げられた。委員長より査読推薦の辞退者が多いことから、この要件を推薦する際の参考に資していただきたい旨の依頼があった。

- 編集事務局より体力科学誌・JPFMSM誌の投稿・掲載状況、審査期間、J-STAGEのアクセス統計について報告された。委員長より、採択の場合は審査期間の中で教育的修正がなされているので、許容範囲にあるが、不採択の場合の期間が長過ぎるのではないかとの指摘があった。この点について総会において会員には査読の迅速化に協力していただくよう依頼することとなった。アクセス統計に関してはJPFMSM誌の場合、日本からのアクセス数は約25%、約75%が日本以外からのアクセス数であることから、JPFMSM誌が外国でも比較的多く読まれているため、今後の引用数の増加に期待できるとの報告がなされた。
- 委員長よりJPFMSM誌に日本体力医学会大会の英文抄録を2016年岩手大会より掲載する日程が説明された。2016年よりJPFMSM誌の発行回数は年6回となることが確認された。
- 原著論文等に関する自己申告による利益相反申告書について、「遡って過去3年間以内」の解釈の仕方が曖昧であるとの意見が出席委員より出された。また、企業に所属する研究者が共著者に含まれる場合はどうするか等の質問があった。これについては、委員長が総務委員長に確認後回答することとなった。
- 委員長よりWeb of Science Core Collection(Impact factor)の収録申請の件について、現段階では引用が非常に少ない為、被引用数の蓄積を待ってから再検討することとなった。
- 委員長より、次期編集委員は今までの“体力科学”、“JPFMSM”の編集方針の基盤を受け継いで次に発展していただきたいとの要望・意見があった。
- 出席委員より、Invited ReviewおよびShort Reviewを投稿論文と同様にオンライン投稿審査システムを介してEditor-in-ChiefおよびEditor(Native checker)の精査の下に行われているのを改め、質の向上をはかるため、提出論文を査読するシステムを導入してはどうかとの提案がなされた。この件につき種々意見交換した後、本提案については次期編集委員会への引き継ぎ事項扱いとすることで了承された。

第26回日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内

本研修会は、基礎コースと応用コースに分かれ、それぞれ2日間、講義と実習を行います。救急救命法、健常者や生活習慣病罹患者に対する運動処方、筋力トレーニングおよびテーピングなど実習を主体とした研修会です。メタボリックシンドローム危険因子保持者などを対象とした運動指導等であり、アスリート対象ではありませんのでご注意ください。

全てのコースを受講して修了試験に合格し、所定の手続きをとると「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号を受けることができます。称号取得を希望される方は、日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

この研修会には日本体力医学会の会員でない方も参加できます。また、他の研修会を受講し、資格や称号を取得された方で、それらの更新に必要な認定単位取得のために本研修会を受講されても結構です。受講証明書を発行いたします。

多数の方のご参加をお待ちしております。尚、実習を行う関係上、各年度の募集人数に制限がありますことをご了解ください。

平成26年12月1日

日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会

山内秀樹 碓井外幸 鈴木政登 太田真 勝村俊仁 中島幸則 木村雅子

1. 会場

会場は東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・大学1号館6F機能系実習室などです。

2. 日時および研修カリキュラム

(I) 基礎コース

運動生理学やスポーツ医学等の基礎的事項を前提に、さらに進んだ生理学（神経・筋、呼吸、循環、代謝など）や生化学、栄養学および運動処方の基礎などを中心に学びます。ここで学んだことを基盤として、(II) 応用コースへと進みます。

平成27年7月3日(金)

9:00~10:30	運動と神経・筋
10:40~12:10	運動と呼吸
12:10~13:10	昼休み
13:10~14:40	運動と代謝
14:50~16:20	運動と栄養
16:30~18:00	運動と循環
18:00~	懇親会（会費3000円、参加自由）

平成27年7月4日(土)

9:00~10:30	運動処方の基礎
10:40~12:10	生活習慣病の運動処方
12:10~13:10	昼休み
13:10~14:40	高血圧および心血管疾患の運動
14:50~16:20	運動器疾患の運動処方

(II) 応用コース

応用コースでは、有患者または薬物治療中の場合の運動適用の可否や運動指導の実際について学びます。実習では、自転車エルゴメータによる運動負荷試験を行い、それと関連した血液・尿検査結果データを参考に運動処方を作成する。さらに、高齢者や喫煙習慣保持者の健康を脅かす慢性閉塞性呼吸器疾患を反映する呼吸機能検査、糖尿病性腎症等の腎機能異常の有無を知る尿検査、およびメタボリックシンドローム罹患の上流因子として重要な内

臓脂肪蓄積状態を知る体脂肪測定法などを実習します。その他に、テーピングや筋力トレーニング実習なども行われます。

平成27年8月7日(金)

- 9:00～12:10 運動処方実習（自転車エルゴメータを用いた運動負荷試験，心電図記録，呼吸機能検査，尿検査，体組成測定実習）
- 12:10～13:10 昼休み
- 13:10～17:00 救急救命実習（人体模型を用いた実習）

平成27年8月8日(土)

- 9:00～12:10 運動処方の作成（前日の運動負荷試験で得られたデータを基に各被検者の運動処方を作成し，実施させる）
- 12:10～13:10 昼休み
- 13:10～17:00 スポーツ障害に対するテーピングおよび筋力トレーニング実習

平成27年8月9日(日)

- 10:00～12:00 修了試験

注意：講師の都合で講義時間割りが前後することがありますので，ご了承下さい。

3. 修了試験と称号について

基礎コースおよび応用コースの両コースを受講した方は，所定の修了試験を受験することができます。修了試験の合格者には合格証を発行いたします。また，修了試験合格後，所定の手続きを経て，日本体力医学会健康科学アドバイザー®の称号を取得することができます。

修了試験は平成27年8月9日(日) 10:00～12:00に東京慈恵会医科大学で行います。

※「日本体力医学会健康科学アドバイザー認定試験過去問集（最近8カ年400題）正解/解説付」（税込：2,000円）がありますので，ご利用下さい。

下記の“9. 申込書送付先および問い合わせ先”へお申込み下さい。

4. テキスト

担当講師が用意した講義資料を簡略なテキスト化し，それに準じて講義が行われます。

5. 受講料

受講料は（Ⅰ）基礎コース，（Ⅱ）応用コースおよび修了試験の全てを受講する場合は50,000円，単科コース（基礎コース，応用コースの各コースを単独受講）を受講する場合はそれぞれ25,000円（2日間コース）です。2コースの受講を原則としますが，定員に余裕があれば，単科コースの受講も可能です。その年度に受講しなかったコースを次年度以降に受講すれば，全コース受講後修了試験を受験することができます。尚，学生受講者は30,000円（基礎・応用コース）と致します。ただし，学生証の呈示が必要です。

6. 受講資格と定員

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが，2コース受講後に行われる修了試験に合格し，「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号取得申請を希望する方は日本体力医学会会員でなければなりません。但し，自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は日本体力医学会会員になる必要はありません。

定員は各コース40名です。

7. その他

健康運動指導士、同実践指導者の登録更新に必要な履修単位90分1単位（講義題目8科目認定）およびTHPではそれぞれ基礎コース5単位、応用コース5単位が認定されます。

8. 申し込み方法

本研修会受講希望者は、葉書またはFAXで、日本体力医学会スポーツ医学研修会を受講したい旨を下記までご連絡下さい。仮申込受付後、申込書類をお送りいたしますので、要領に従いお申込下さい。なお、申込に際し、受講料をご案内の口座に2週間以内にお振込みください。お振込みをもって正式な申し込みとさせていただきます。定員に達し次第、締め切らせていただきますのでご了承下さい。受講票、受講料などの連絡は、受講通知とともに後日ご案内させていただきます。

なお、申し込みが20名に満たない場合には中止させていただきますのでご了承ください。その時には受講料を払い戻しますが、本人都合による返金には応じられませんので、あらかじめご了承下さい。

9. 申込書送付先および問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13小石川アーバン4F

一般社団法人 学会支援機構内

日本体力医学会スポーツ医学研修会 係

電話：03-5981-6015 FAX：03-5981-6012

E-mail：jspfsm@asas.or.jp

第26回日本体力医学会スポーツ医学研修会仮申込書

下記の通り、研修会の受講を申込ます。（該当する□にレ印をつけてください。）

第26回 基礎コース

第26回 応用コース

試験

氏 名 _____

連絡先 〒 _____

TEL： _____ E-Mail： _____

平成27年度日本体力医学会プロジェクト研究公募について

日本体力医学会プロジェクト研究（以下、プロジェクト研究）は、平成9（1997）年度に発足しました。日本学術会議体力科学研究連絡委員会から「日本人のための健康体力指標の標準化、及び健康増進・疾病予防のための身体活動に関する推奨・指針作成への提言」が出されたことを受けて、平成16年度からこの提言に関わるプロジェクト研究を公募して参りました。平成27年度の公募研究テーマが下記のごとくに決定しましたので、奮って応募いただくようご案内致します。

プロジェクト研究の全体像

1. プロジェクト研究は、日本人の健康維持・増進に関連した体力および身体活動・運動を主題とした研究であり、その成果として、社会に向けて勧告、指針などの提言がまとめられるものでなければならない。
2. 平成27年度は下記のいずれかの研究テーマに関わる研究課題に限定する。
 - 1) 健全な発育・発達に資する研究
 - 2) 中高齢者の健康長寿に資する研究
 - 3) アスリートの障害予防または競技力向上に資する研究
 - 4) そのほか（特別な学術的貢献が期待できる課題）
3. 多施設が共同研究を行うことにより、より優れた成果が出るような研究プロジェクトであること。その際に各研究者の役割を明確にすること。
4. プロジェクト研究の選考は学術委員会の下部組織であるプロジェクト研究委員会が行う。
5. プロジェクト研究の申請は、研究代表者（評議員）と数名の発起人が、研究計画書を共同で作成し、プロジェクト研究委員会に提出する。
6. プロジェクト研究委員会では提出された研究計画書を審査し、採択候補研究を選定する。なお、新規採用可能件数は原則1件である。
7. プロジェクト研究委員会は研究計画に基づき研究費を配分する。研究費は主に調査や資料の収集などに当てるものとする。年間およそ100万円程度

を限度として配分する。プロジェクト研究の研究成果は3年以内でまとめ、(1) プロジェクト研究委員会の審査を経て、理事会の承認を得ることとし、(2) 「体力科学」および日本体力医学会大会において公表する。（注：学会の公式見解とするかどうかは、理事会で審議する）

プロジェクト研究に応募される方は、研究代表者（評議員に限る）と数名の発起人が、以下の項目に沿って研究計画書をA4版にワードプロセッサで書き、平成27年4月30日までに下記の提出先にお送りください（電子メールによる提出が望ましい）。研究計画の採否は追って、研究代表者に通知します。

研究計画書

1. 研究代表者名（署名捺印してください）、所属部署・所属大学など、住所、最終学歴（卒業大学または修了大学院）と年月日、学位の有無、連絡先の住所、電話、ファックス、電子メールアドレス
2. 研究発起人名、所属部署・大学、最終学歴（卒業大学または修了大学院）と年月日
3. 研究課題
4. 研究目的（200字以内）
5. 研究期間（3年以内）
6. 研究計画（200字以内）
7. 研究方法（400字以内）
8. 期待される研究成果（200字以内）
9. 研究費の使途（会合費、通信費、印刷代などの費目）に分けて概算を記載してください
10. この研究に関するこれまでの成果（原著、著書などの研究業績）を番号をふって書いてください

提出先 田中喜代次

日本体力医学会プロジェクト研究委員会委員長
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1
筑波大学体育系
電話：029-853-2655 Fax：029-853-2986
E-mail：tanaka@taiiku.tsukuba.ac.jp

日本体力医学会 国際交流事業
2015年米国スポーツ医学会 (American College of Sports Medicine: ACSM)
参加助成制度 募集要項

日本体力医学会会員各位

1. 2015年5月26日～5月30日に米国San Diegoにおいて第62回ACSMが開催されます。ACSMでは例年多くの日本体力医学会員が研究成果を報告しています。日本体力医学会では国際交流事業の一環として第62回ACSMにおいて特に優れた研究成果の発表を行う大学院生2名(口頭発表1名, ポスター発表1名)および若手研究者1名(口頭発表)に対して参加を支援する助成金を贈呈します。本会会員若手研究者および大学院生の積極的な応募を期待します。
2. 助成金の応募資格は以下の要件を満たすこととします。
 - (ア) 2015年4月の時点での日本国内の大学院の在籍者(修士(前期)課程・博士(後期)課程・研究生を含む), あるいは日本国内の研究機関・教育機関に所属する35才未満の若手研究者。
 - (イ) 大学院生: 第62回ACSMに口頭発表あるいはポスター発表の筆頭演者として演題が採択された日本体力医学会会員。
 - (ウ) 若手研究者: 第62回ACSMに口頭発表あるいはポスター発表の筆頭演者として演題が採択された日本体力医学会会員。
 - (エ) なおできるだけ多くの会員に機会を提供するために, 過去3年間で本助成制度に採択されている場合, 応募は受け付けますが, 演題審査で同じ評点の場合には過去に採択されていない方を優先します。
3. 助成金制度に応募する会員は, 日本体力医学会会員

番号, 生年月日, 氏名, 提出した演題登録内容(タイトル・共同演者名・所属, 抄録本文(いずれも英文)), 及び演題応募者に通知される演題採択結果, さらに大学院在籍者は学生証の写しと指導教員の推薦状(A4版1枚程度・書式自由)を2015年2月27日(金)午後5時までに電子メール(推薦状や学生証の写しも含めてできるだけPDFファイルでお送りください)で渉外委員会委員宮下政司(masashi@u-gakugei.ac.jp)宛にお送りください。

4. 採択の可否は, 渉外委員会が組織する推薦委員会で審議を行い2015年3月中旬頃までに決定し, 本人に通知するとともに, 本ホームページ上で発表者氏名と演題名を公表します。
5. 採択者には日本体力医学会より参加支援助成金として最優秀賞120,000円, 優秀賞100,000円, 奨励賞80,000円を支給します。
6. 不明な点, 質問は渉外委員宮下政司あるいは委員長永富良一(nagatomi@med.tohoku.ac.jp)までメールでお知らせください。
7. 応募者が発表を行わない場合には助成を取り消すことがあります。

なお採択者には2015年6月中旬に報告書を提出していただきます。報告書は体力科学に掲載されることになります。

2014年11月

日本体力医学会渉外委員会

第19回日本体力医学会東海地方会 学術集会 概要

日 時: 2015年3月7日(土) 9:00～17:00

会 場: 名古屋大学 野依記念学術交流館

大会長: 石田浩司(名古屋大学総合保健体育科学センター)

大会実行委員: 石田浩司, 秋間 広, 水野貴正, 片山敬章(名古屋大学), 高石鉄雄(名古屋市立大学), 堀田典生(中部大学), 渡邊航平(中京大学)

プログラム(予定)

1) 一般発表: 12～16題

2) 特別講演

森谷敏夫(京都大学)

「骨格筋電気刺激による代謝調節と臨床応用」

3) シンポジウム

「運動と脳機能 – 運動をコントロールする脳と, 脳をコントロールする運動 –」

佐藤耕平(日本女子体育大学)

「運動時の脳血流応答とその調節因子」

荒牧 勇(中京大学)

「運動制御・学習の神経基盤」

安藤創一(電気通信大学)

「一過性の運動が認知機能に及ぼす影響」

島田裕之(国立長寿医療研究センター)

「認知症予防に対する運動の効果」

大会事務局: 名古屋大学総合保健体育科学センター内 片山敬章

E-mail: 19tairyoku@htc.nagoya-u.ac.jp

http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/~19tairyoku/

平成27年日本体力医学会関東地方会の開催予定

平成27年に開催される関東地方会は、次の通りです。地方会のご案内および演題募集は、逐一「体力科学」および「日本体力医学会ホームページ」にてご連絡を申し上げます。また、プログラム案内もでき得る限り「体力科学」の紙面および「日本体力医学会ホームページ」活用を考えております。皆様の演題応募ならびに積極的なご参加をお待ち申し上げます。

第163回日本体力医学会関東地方会

開催日：平成27年2月28日(土) 13:00～開催予定
 会場：慶應義塾大学芝共立キャンパス(東京都港区芝公園1-5-30) 1号館地下1階 マルチメディア講堂
 ・御成門駅(都営地下鉄三田線) 徒歩2分
 ・大門駅(都営地下鉄浅草線/都営地下鉄大江戸線) 徒歩6分
 ・浜松町駅(JR山手線/JR京浜東北線) 徒歩10分
 (<http://www.keio.ac.jp/ja/access/shiba.html>)

[一般演題の締め切り予定：平成27年1月31日]

当番幹事：齋藤英胤(慶應義塾大学薬学部薬物治療学講座)
 連絡先：木村真規(同上)
 Tel & Fax: 03-5400-2692
 E-mail: kimura-ms@pha.keio.ac.jp

第164回日本体力医学会関東地方会

開催日：平成27年7月11日(土) 13:00～開催予定
 会場：桐蔭横浜大学(横浜市青葉区鉄町1614) 中央棟

・東急田園都市線青葉台駅、市が尾駅からバス10-15分
 ・小田急線柿生駅からバス10-15分
 (<http://toin.ac.jp/univ/>)

[一般演題の締め切り予定：平成27年6月13日]

当番幹事：桜井智野風(桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部)
 Tel & Fax: 045-973-5846
 E-mail: sakurai@toin.ac.jp

第165回日本体力医学会関東地方会

開催日：平成27年11月28日(土) 13:00～開催予定
 会場：杏林大学医学部付属病院大学院講堂(東京都三鷹市新川6-20-2)
 ・JR中央線・総武線三鷹駅からバス約20分
 ・JR中央線・総武線・京王井の頭線吉祥寺駅からバス約20分
 ・京王線仙川駅からバス約15分
 ・京王線調布駅からバス約25分
 (<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/student/campus/mitaka/>)

[一般演題の締め切り予定：平成27年10月31日]

当番幹事：木崎節子(杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室)
 Tel: 0422-47-5511 Fax: 0422-44-4427
 E-mail: kizaki@ks.kyorin-u.ac.jp

関東地方会事務局

聖マリアンナ医科大学 生理学
 吉岡 利忠
 TEL & FAX 044-977-3915

日本医学会だより

JAMS News

2014年10月 No.52
日本医学会

◆日本医学会シンポジウム

第146回シンポジウムは「がんの非侵襲的診断法の最前線」をテーマに、12月18日(木)13:00~17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、坂元亨宇、西尾和人、藤井博史の各氏。参加申込みは郵便はがき、FAX、本会HP (<http://jams.med.or.jp/>) にて受付中。参加費無料。詳細はHPに掲載。

◆日本医師会・日本医学会合同シンポジウム

「子宮頸がんワクチンについて考える」をテーマに、12月10日(水)13:00~16:30、日本医師会館大講堂において日本医師会と合同でシンポジウムを開催する(総合司会:小森 貴日本医師会常任理事。座長:高久史磨日本医学会長)。詳細は本会HPに掲載予定。参加費無料。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月3日に開催し、平成26年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数:医学賞19、奨励賞25を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は14名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・ピロリ菌による胃癌発症の分子機構/畠山昌則(東大・微生物学)
- ・癌の分子標的予防法の確立とその応用に向けての研究/酒井敏行(京府医大・分子標的癌予防医学)
- ・自己免疫疾患に対する分子生物学的解析/山本一彦(東大・アレルギー・リウマチ学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・中枢神経・肝臓クロストークの分子メカニズムの解明/井上 啓(金沢大脳・肝インターフェースメディシン研究センター)
- ・筋萎縮性側索硬化症の新規モデル動物作成による発症病態の解明/河原行郎(阪大・神経遺伝子学)
- ・癌細胞特異的なTGF- β シグナル伝達制御機構の統合的同定解析/鯉沼代造(東大・分子病理学)
- ・癌上皮間葉移行におけるmicroRNA転写機構の解明/水口義昭(日医大・消化器外科学)
- ・下部尿路機能障害における全身および局所血流障害からみた病態解明と臨床応用/松本成史(旭川医大・腎泌尿器外科学)
- ・滲出型加齢黄斑変性の発症、進展における全身的因子の解析/柳 靖雄(東大・眼科学)
- ・超高齢化社会における失明予防のための緑内障ビックデータによるデータマイニング/中澤徹(東北大・眼科学)
- ・遺伝性不整脈の新たな原因遺伝子と機序の解明ならびに個別化療法の確立/渡部 裕(新潟大・循環器内科学)

- ・心筋症の発症・進展における樹状細胞の意義/安齊俊久（国立循環器病研究センター）
- ・思春期特発性側弯症に対する次世代型3次元変形矯正固定術：アノミカル・ロッドを用いたオーダーメイド外科治療への展開/須藤英毅（北大・脊椎・脊髄先端医学）
- ・内耳再生医療をめざした内耳薬物動態の解明/神崎 晶（慶大・耳鼻咽喉科学）
- ・ヒト人工多機能幹細胞由来心筋細胞 Extracellular matrix (ECM) グラフトを用いた心不全治療の開発/宮城泰雄（日医大・心臓血管外科学）
- ・増殖因子と細胞内シグナル制御による糖尿病網膜症の病的血管の再生治療/鈴間 潔（長崎大・眼科学）
- ・ヒト無精子症の病態解明および臨床医学への応用/宮本敏伸（旭川医大・産婦人科学）

◆日本医学会分科会利益相反会議

「医学研究のグローバル化とCOIマネジメント」をシンポジウムテーマとした第5回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11月28日（金）13：00～16：20、日本医師会館大講堂にて開催する。参加希望者は、本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）にて、申し込まれたい。先着80名。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「日本医学会分科会におけるCOIマネジメントのアンケート結果報告」「フォルタレザ改訂ヘルシンキ宣言の基本理念と臨床研究—作業部会の一員として—」「欧米の臨床研究にかかるCOIマネジメントの現状と動向」「製薬企業による研究機関への研究支援とその公開の在り方」「臨床研究にかかる企

業の役務提供をどう考えるか」のそれぞれの講演が行われる予定。

◆日本医学雑誌編集者会議

「不正論文と編集者の責務」をシンポジウムテーマとした第7回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会・第7回シンポジウムを北村聖日本医学雑誌編集者組織委員会委員長の総合司会の下、11月5日（水）13：00～16：30、日本医師会館大講堂にて開催する。参加希望者は、本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）にて、申し込まれたい。先着80名。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「編集ガイドラインとCOI」、「統一投稿規定から“Recommendations”へ：ICMJE2013年改訂」、「COPEとそのガイドライン」、「研究不正行為の実効性ある対応に向けて」、「ミスコンダクトと学会の対応—日本高血圧学会のケース—」、「不正論文の元凶：ピペドとIF」のそれぞれの講演が行われる予定。

◆移植関係学会合同委員会

第32回移植関係学会合同委員会が9月19日、厚生労働省で開催された。脳死下臓器移植の進展を踏まえ、より効果的な施設認定・取り消しを行う仕組みの検討が協議された。従来、移植施設が患者を日本臓器移植ネットワーク（JOT）に登録する際は臓器別の関係学会による適応検討を受けていたが、今後は一定の基準を満たした施設であれば施設内の適応評価のみでJOTへの登録を可能とすること、関係学会は移植の実施状況について事後的に把握すること等が承認された。今後、厚労省にガイドラインの改正について検討を求めることになった。

編 集 後 記

今年もあっという間に1年を振り返る季節がやってきましたが、ここに「体力科学」第63巻第6号をお届けいたします。この第6号には、例年同様、1号～5号に掲載された演題一覧、日本体力医学会大会と英文誌「JPFSM」の抄録が掲載されています。本誌の編集に携われた多くの皆様、本当にご苦労様でした。特に長崎において第69回日本体力医学会大会を主催された大会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

さて、この時期になると世間では、その年の新語・流行語大賞候補がノミネートされ、あらためて今年がどのような年であったかが分かります。2014年は「ありのまま」, 「こびっと」, 「号泣会見」, 「ダメよ～ダメダメ」など映画やTVの世界から選ばれた言葉以外にも、「輝く女性」, 「STAP細胞はあります」, 「2025年問題」, 「リトル本田」, 「レジェンド」, 「勝てない相手はもういない」など、我々の研究やスポーツにも関わる言葉が多数ノミネートされているようです。

実は、この「体力科学」第6号にも、今年の学会員の活動を振り返る事に役立つ情報が掲載されています。それは、体力科学第63巻第1号～6号に掲載された演題のキーワードあるいは著者名を、各ページに100件前後、併せて40ページ以上にわたって巻末に掲載した「物件総索引・人名総索引」です。今年の学会大会では約800

もの演題が発表されましたから、その影響を強く受けていることは確かですが、本学会会員の研究の様子を大観するにはとてもよい資料だと思います。私は、物件総索引で見慣れない、あるいはその研究を全く想像できない言葉を目にしたときには、できる限りそのページを読んで自分にとっての「新語」を理解することに心がけています。また、大学では大学院生・ゼミ生たちの知識の幅を広めるための資料としても活用しています。

ところで、別の視点からですが、B. Saltin教授およびJ.H. Wilmore教授という運動生理学・スポーツ科学における偉大な先生方が、最近天国へと旅立たれました。主には論文や教科書でしか出会えることが出来なかった先生方ですが、学会誌等に掲載された追悼文を読んだとき、何故か分かりませんが強い衝撃を受けたことを忘れることが出来ません。お二人の先生方には、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

最後になりますが、2015年9月に開催される和歌山での学会大会が無事成功を取めると共に、会員の皆様の日頃の研究の成果が、学会発表抄録に留まらず「体力科学」あるいは英文誌「JPFSM」への投稿論文として発展いたしますようお願いしております。

内藤久士

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.63, No.6

体 力 科 学 第 63 巻 第 6 号

平成 26 年 11 月 25 日 印 刷

平成 26 年 12 月 1 日 発 行

編集兼発行者	鈴木 政 登
発 行 所	一般社団法人日本体力医学会 〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階 学会支援機構内 TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012 E-mail : jspfsm@asas.or.jp
編 集 事 務 局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120 E-mail : hj-tairyoku@turui.co.jp
印 刷 所	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社
